

1. 議事日程（第8日目）

日程第 1 一般質問

1. 北垣 潮君
 - (1) 台風15号の対策について
 2. 宮下 昌子君
 - (1) 前島地区総合開発事業について
 - (2) 図書館について
 - (3) 市職員について
 3. 西本 輝幸君
 - (1) パライズストローリー上天草観光循環バスについて
 - (2) 雲仙天草国立公園千巖山展望所の管理と今後の対策について
 4. 島田 光久君
 - (1) 人口減少に対応できる行政運営について
 - (2) 耕作放棄地の現状と農業振興策について
 - (3) イノシシの捕獲状況と対策について
-

2. 本日の出席議員は次のとおりである。（16名）

議長 田中 勝毅		
1 番 何川 誠	2 番 嶋元 秀司	3 番 切通 英博
4 番 塩田 真一	5 番 何川 雅彦	6 番 宮下 昌子
7 番 西本 輝幸	8 番 高橋 健	9 番 小西 涼司
10 番 北垣 潮	11 番 島田 光久	14 番 園田 一博
15 番 桑原 千知	16 番 渡辺 勝也	17 番 津留 和子

3. 本日の欠席議員は次のとおりである。（0名）

な し

4. 会議事件説明のため出席した者の職・氏名

市	長	堀江 隆臣	教	育	長	藤本 敏明					
総務企画部	長	川端 義孝	市	民	生	活	部	長	緒方 雅文		
建	設	部	長	澤村 弘史	経	済	振	興	部	長	村川 和敬
教	育	部	長	舛本 伸弘	健	康	福	祉	部	長	野崎 秀満
上天草総合病院事務部	長	松本 精史	総	務	課	長	和田 好正				
財	政	課	長	坂田 結二	会	計	管	理	者	木本 昌亮	
水	道	局	長	藤島 幸治							

5. 職務のため出席した者の職・氏名

議	会	事	務	局	長	山下 正	局	長	補	佐	海崎 竜也
主	事	木本 臣英									

開議 午前10時00分

○議長（田中 勝毅君） おはようございます。

報道機関から写真撮影の申し出がありましたので、これを会議冒頭のみ許可します。

これより会議を開きます。

本日の議事日程はお手元に配付してあるとおりでございます。

日程第1 一般質問

○議長（田中 勝毅君） 日程第1、一般質問。

通告がっておりますので、順次発言を許します。

北垣潮君より資料の配付について申し出がありましたので、会議規則第157条によりこれを許可します。

10番、北垣潮君。

○10番（北垣 潮君） おはようございます。議長の許可がありましたので、一般質問をさせていただきます。

質問事項は台風15号対策としていますが、一日一日と日が過ぎたので、台風15号被害を受けての今後の対策としたほうがいいのではないかなと思っています。今回の台風は、米軍の進路予想とは随分違っておりました。私たちも、天草の西海上を北上して進み、南風の風が強く吹くだろうと思っていました。議会運営委員会が25日に開催される予定でしたが、台風が来るからということで24日に開かれました。私も23日の最終便で東京から帰ってきていたので間に合いました。私事になりますが、台風前は、港の中は、クモの巣のように、船がロープをいっぱい

張り詰めていくんですが、大矢野から帰ってみると、ロープの数が少ないので随時張っております。そうしていたところ、9時ごろになりましたので携帯で天気予報を聞くと、東のち西、東の風が強く、吹き返しは西で、西の風はそうでもないということがわかりました。それからまた、東風が吹いてもいいようにロープを何本も結びつけました。そして、加工場のほうの台風対策をしていると、1時ごろになりました。

今回、21番目に台風前の病院の対応についてお聞きしておりましたけれども、これを1番目に持ってきます。まず、台風が来る前に救急車を呼んだ際のやりとりで、上天草総合病院に入院しないのであれば診察は行すが、入院されるのであれば診察はしない、本渡のほうへ連れて行ってくれとのやりとりがあったと聞くが、事実でしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 上天草総合病院事務部長。

○上天草総合病院事務部長（松本 精史君） おはようございます。お答えいたします。

まず、結論から申し上げますと、病院のほうから、そういうお話を直接その患者さんにはしていないというのが事実でございます。

その理由をお話いたします。

まず、消防署の東天草分署に対してでございますけれども、病院のほうから、当日、入院ベッドがあいていないという状況でございましたので、紹介転院、いわゆる入院が必要な可能性のある患者さんの場合は他院を探してくださいと、消防署のほうに説明をしてあるところでございます。救急で来院の患者様に関しては、診察をする、しないという話は病院のほうからしておりません。

ただ、消防署の救急隊のほうから、搬送時に、患者家族に対しまして、病院の状況を説明されたということでございます。そのときに話の行き違いや誤解が生じたものと思っております。実際のところ、その患者さんは救急車で上天草総合病院のほうに来院されまして、診察や検査を行い、薬を出して帰宅されたそうでございます。

以上でございます。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 確かに、そういうやりとりがあったそうであります。以前も、1年ぐらい前ですか、私も聞いていたんですけど。熊本から帰ってきたら、ひとり暮らし老人の母親がこたつの中で尿失禁状態であり、もうこれは危ないと思って救急車を呼び、上天草総合病院に診察をお願いしたら、先ほど一人救急患者を受け入れたため、受け入れられないので本渡のほうにでも連れていかれてくださいとナースの方に言われたということで、救急車でまた本渡の中央病院まで連れていかれたという話も聞きました。

私は、上天草総合病院は市民のための病院だと思いますので、こういう対応はちょっとまずいんじゃないかなと。よく最近聞くんですけど、病院が1軒しかないからというか、何かこう、いわゆる上から目線だという声を聞くわけでありまして。熊本にある病院などは、大きい病院でも小さい病院でもほとんどが「下から目線」で、そういう対応をされているということも聞きます。

もし、台風が来てけがをした患者さんが来られた場合、ベッドがないから本渡のほうへ行ってくださいとまた言われるんでしょうかね。どうでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 上天草総合病院事務部長。

○上天草総合病院事務部長（松本 精史君） 済みません、私はその昨年の話は聞いておりませんので、何ともお答えすることができませんけれども、確かに、地元の一つしかない医療機関でございます。私と事業管理者の考えは、救急は全て受けるように思っているところでございます。

ただ、人間的な面で、先ほど話がありましたように、先に重篤な患者さんがいらっしゃった場合、対応することができない場合もあるかもしれません。そういう場合に、救急隊員にそのような話をしているかとは思いますが、今後、また事業管理者とも話をしまして、全て受け入れるような話で周知徹底をしていきたいと思っております。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 救急車を呼ばれた人たちの身になれば、本当に、受け入れるのが先じゃないかなと言われるんですね。まず見てもらって、その後の判断じゃなかったのかなということでもありますので、今後の対応をよろしくお願いします。

この上天草総合病院についても、森国久初代村長が全国離島振興協議会の副会長ということもありまして、その当時、天草振興協議会の会長でもあったわけですが、まず、松島に持ってきて、松島の議会で蹴られて、次は姫戸で蹴られて、倉岳で蹴られ、そして龍ヶ岳となって、姫戸では龍ヶ岳も野党議員が多いから今度こそ姫戸で建ててやるという話もされていたということも聞いております。上天草総合病院が建設された時の話はさておいて、そこにはいろいろな事情があったわけでありまして、その辺も加味して、今後の患者さんの対応に当たってもらいたいと思います。

台風とはかけ離れていたといえればいたような話でありますけれども、台風の前の、あと二、三時間すれば台風が来るといふ時の話だったものですから、入れさせてもらいました。

ここ何年か台風の被害もなく、今回はちょっとした油断もあったのではないかなと思いましたが、今後の台風対策に生かすために、今回、私は質問いたします。

台風前日の24日には、防災無線で、台風15号が来ますので避難してくださいと何回も放送がございました。お聞きします。避難所に多くの方が避難されたと思いますが、避難所ごとの避難者の人数、年代、性別はどのようになっていますか。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） おはようございます。よろしく申し上げます。

お答えしたいと思います。

先月の8月24日午後5時ですけれども、市内13カ所に避難所を開設したところでございます。避難者数は、全体で128世帯の175人になっております。男女の内訳ですけれども、男性が49人、女性が126人となっております。そのうち、全体の9割近くが60歳以上の方で、

最も多かったのは70歳代の方ということであります。

各避難所の避難者数についてですけれども、まず、農村婦人の家は男性が二人、女性が7人の計9人。

上北体育館が男性一人に女性一人で、計二人。大矢野総合体育館ですけれども、男性が11人で、女性が39人、計50人。市役所の維和出張所は男性が一人、女性が二人の計3人。湯島のよんなっせが女性6人となっております。

松島総合センターアロマですけれども、男性が8人で、女性が13人の計21人。教良木河内交流センターが男性二人、女性5人の計7人。樋合体育館におきましては、避難者はおりませんでした。今泉多目的集会所ですけれども、男性二人と女性一人の計3人です。

市役所の姫戸統括支所は女性が二人のみです。市役所の龍ヶ岳統括支所ですが、男性が16人で女性38人の計54人となっております。

大道老人福祉センターですけれども、男性が5人、女性が9人の計14人。樋島地区の集会所が男性3人、女性3人の計6人となっております。

以上でございます。

○議長（田中 勝毅君） 北垣潮君。

○10番（北垣 潮君） 質問項目には入っておりませんが、ひとり暮らしの方はどれぐらいかわかりませんか。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） 年代と性別などは把握しているんですけども、そこまではちょっと把握しておりません。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 以前は、消防団の方々が、ひとり暮らしのところには、避難しませんかと声をかけて回っておられました。後で聞いた話によりますと、ひとり暮らしの方で、台風が来て、とにかく今度の台風は今までと違って風が強かったということで、もう部屋の隅っこにいて、「神様、助けてください」と祈っていた人もおられたそうであります。今回の台風の風はすごかったという声を耳にします。我々のところは、各家庭の瓦は余り飛んでいませんでした。この北の風の台風というのは、私も台風を何回か経験しておりますけども、昔、親たちから聞いた以外には、余り被害、そういった風はなかったように記憶しております。今回、被害があったところは、やっぱり北向きで、湯島や樋島、龍ヶ岳の瀬戸地区とか、北向きには家が建っていない、そういうところは余り被害がなかったのかなと思いますが、樋島の下桶川地区とかは何か随分被害も多かったというふうに聞いております。

またお聞きしますけれども、避難所において、体の不自由な方に対してはどのような対応をしておられるのかお聞きします。

○議長（田中 勝毅君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（野崎 秀満君） 避難所において、体の不自由な方に対してどのような対応を

されているのかということですが、各避難所にそれぞれ必要な職員を配置しておりますので、高齢者等の介助の必要な方に対しては、歩行の介助、それから荷物の持ち運び等、適宜対応をしているところでございます。

それから、各避難所の状況にもよりますが、高齢者等の支援が必要と思われる方については、畳の部屋やソファの優先使用、それからトイレ近くの部屋の利用など、可能な限り、要配慮高齢者等への配慮をした避難所を運営しているところでございます。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） わかりました。私も、まだ避難所を見に行ったことがありませんので、ぜひとも見に行かなければならないなど最近、つくづく思っております。

3番目に、風が強くなった際に、避難所に避難したいと助けを求められた場合の対応はどうされていますか。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） まず、風が強くなった状況での避難行動につきましては、逆に避難途中に被災する可能性も非常に高いことから、避難支援の判断は慎重に行うべきかなと思っております。まず、それに先立ちまして、早目の安全避難ということ、早目に呼びかけて実施しているところでございます。

それと、暴風域に入ってから外出や避難は、逆に、非常に危険を伴うということもありますので、安全な明るいうちからの予防的避難の推進や、避難準備情報等を積極的に出すなど、結果的に何もなかったという形で、情報を早目に、積極的に発信していくことを心がけているところでございます。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 確かに今回は、前日はもう、避難の指示の防災無線がうるさいくらいに何回も流れておりました。いつも台風が来るときには、各消防団の消防ポンプ小屋に消防団員の方が待機しておられるんですけど、今回はそういう待機状態がなかったのはなぜなのでしょう。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） 消防団員につきましては、今回、特別に指示は出していないところではあります。ただ、自主的にされたところもあると伺っております。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 不知火町の松合で高潮被害があったとき、龍ヶ岳町は消防ポンプ小屋に消防団が待機して、何人かの人を消防団が助け出したということで、防災功労者消防庁長官表彰を受けております。そのときも不知火のほうはそういうことがなかったというか、その差がいろいろ報道でも出ておりました。今回、なかったのは、ちょっとまずかったというか、そう被害がなかったからよかったでしょうけど、やはり消防団が待機していれば、市民の人た

ちも気持ち的に安心というか、そういうこともありますので、なるだけ――。龍ヶ岳町は特に、水害後、そういうふうになったと思いますので、そういうことは、合併してからも上天草市として受け継いでほしいと思います。その辺の御指導をよろしくお願いします。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） 確かにおっしゃるとおり、以前、龍ヶ岳のほうでもやっていたことではあります。今回につきましても、当然、情報共有はしておりますので、連絡の体制は整っております。各支所も、当然、職員も半数近く詰めておりますし、その面からいくと、ある程度の対応はできたのかなと思いますけれども、やはり民心の安心からいくと、そういうことも、今後、当然検討していくべき問題だとは思っております。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） はい、よろしく申し上げます。今回のこの台風は、風台風といえますか、よく樹木が折れたりしているケースが多い状況であります。今回の台風による農林水産業の被害は、どれぐらいあったのでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 経済振興部長。

○経済振興部長（村川 和敬君） おはようございます。よろしくお願いいいたします。

台風15号による農林水産業への被害についてということでございますので、御説明いたしたいと思います。

まず、農業施設につきましては、ハウスの被害として、ビニールやパイプ部分の一部損壊などが13件。それから農作物ですけれども、野菜が約1.1ヘクタール。果樹は、本数でいうと約100本。それから花卉、花ですが、これが約0.26ヘクタール。あと、そういう作物の倒伏被害がありまして、件数が11件となっております。

それと農道なんですけれども、農道への倒木によりまして、車両等の通行に支障を来したという被害が出ておりまして、そういう件数が19件。

それから水路ですが、倒木によります水路の閉塞というところが2件。農地は、農地畦畔の崩壊が1件。

次に林道ですけれども、倒木によります通行どめ、また片側通行などが8件。

それと、漁港施設関係ですが、漁港施設内の倒木、それから建物や浮棧橋等の破損など13件。水産関係ですが、これは個人所有の船舶の転覆や一部破損、それから浮棧橋の破損などが合計22件となっております。

以上でございます。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 今回、永目港の棧橋の被害が、何でああいうふうになったのかなと思うくらい、あの地区では、あそこが1カ所、ひっくり返った状態になっているのを見て、私もびっくりしたわけでございます。ちょっと気づいたことなんですけれども、ただ、陸側に乗

せてあるだけで、ほかの棧橋と比べた場合、陸側への固定がちょっと弱かったのかなと、棧橋の一番つけ根のところは何もなかったのかなと、そういう思いでした。

また、大道漁港の棧橋ですけど、やはり、私も何回か一般質問でもしておりましたけれど、その対策が全然していなかったということでもありますので、これは、執行部の反省も必要ではないかなと、私は思いました。大道港には立派な、あのいろいろ問題になった立派な棧橋があります。ちょっと脱線しますけれども、あの棧橋は御所浦の人たちがほとんど使っていて、天草市でつくってもよかったような棧橋だと思います。

一番大事なことを次に言いますけれども、家屋への被害件数はどれぐらいありますか。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） 家屋への被害ですけども、237件を確認しているところでございます。内訳といたしましては、物置小屋、これは空き家状態でございますけれども、全壊が2件。あと、瓦や窓ガラスの破損が95件。それと、壁やカーポート等の破損が140件となっております。

以上でございます。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 地域ごとにはわかりませんか。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） 地域ごとには、ちょっと今すぐには、件数的に集計は入れられませんけれども、被害状況調査を実施して一覧表にまとめてあるものは現在あります。しかし、それぞれの地区ごとの件数は、それを見てからでないと答弁できません。済みません。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 6番目に行きます。市内の停電した地域及び停電した時間が、何日の何時までだったのかということと、停電しなかった地域はあったのかということをお聞きします。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） まず、停電した地域ですが、これはほぼ市内全域となっております。停電は、8月25日の午前5時ごろ発生しております。

長時間にわたり停電となった地域につきましては、龍ヶ岳町高戸地区の一部と、樋島地区のほとんどが翌日の午後9時ごろまでです。松島町阿村地区の一部が翌日の午後6時ごろまでで、その他の地区につきましては、8月25日の午後10時ごろまでには復旧したということです。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） この停電ですが、どういう理由だったかわかりませんか。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） 停電の理由ですけども、九州電力に確認したところ、倒木

関係で電線を破損したその箇所数が多かったということをお伺っております。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 市のほうでは、停電の早期復旧に向けて、九州電力と一緒に、何らかの対応策を講じられたのかということをお聞きします。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） 九州電力と一緒に何らかの対応策を講じたのかということにつきましては、8月25日の午後2時と午後5時に、防災行政無線で停電に関する情報を一斉放送したところでございます。また、26日まで停電状態が続いていたところでは、九州電力からの情報をもとに、26日の午前、町ごとに防災行政無線による放送を実施しております。

市といたしましては、停電に係るこの情報収集ですけれども、九州電力への電話を繰り返し行いました。ただ、問い合わせが殺到していたこともあってなかなか電話が繋がらずに、台風15号の影響による広範囲・長時間にわたる停電の状況や復旧等の見通しを適切に把握するまでには至らず、停電に対しての十分な対応ができなかったことは反省しているところでございます。

以上でございます。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 確かに、私の地域といいますか、龍ヶ岳などでは、本当に停電に対しての何の連絡もない。いつ電気がつくようになるんだろうかという不安もいっぱいありました。停電している状態のときも災害が進行中だという捉え方も必要じゃないかなと、私も思うところでありますが、どのように捉えておられますか。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） 今回の停電等に関して、早目にとということでございますけれども、当然、基本的に、そういう電線等の状況はこちらも個人的には承知しているところもありますけれども、そこまで具体的に九州電力のほうと協議するまでには至っていない状況であります。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 九州電力から出ている議員もおりますので、私もいろいろ電話したりしましたがけれども、電話では、市と一緒に頑張っておりますということをおっしゃったので、ああ、市も頑張っておられるんじゃないかなと思っておりました。

権現平のあの付近とかが、一番倒木がひどかったように思います。私もなるべく早く電気が通るようにと思って、あの付近は竹がいっぱい道に倒れかかってそのままになっておりましたので、竹を切ったり、いろいろ片付けたり、あの人たちも、夜、御飯も食べずに頑張っておられましたので、差し入れもしました。

次に、台風によって断水が発生した場所及び断水時間はどれぐらいだったでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 水道局長。

○水道局長（藤島 幸治君） お答えいたします。

8月25日の台風15号の影響で発生しました広域的な停電によりまして、樋島地区の配水池に浄水を送る送水ポンプが稼働しなくなったために、樋島地区全域において断水となりました。今回の断水により、利用者の皆様に御迷惑をおかけいたしましたことにおわびを申し上げます。

断水時間についてですが、上水道では停電によりすぐに給水がとまるわけではなく、貯水タンクにためられている半日から1日分の浄水を停電時でも給水することが可能です。しかしながら、停電により送水ポンプが停止してしまうと、貯水タンクに水を補充することができなくなり、長引いた場合に断水することになります。樋島地区においては、25日の朝4時50分ごろに停電が発生しましたが、26日の早朝までは給水できていたと聞きましたので、仮設電源によって送水ポンプが稼働した11時ごろまでの約6時間が断水であったと考えます。

また、断水時に実施しました給水対応につきましては、8月26日8時15分に、樋島地区において断水情報の広報を実施し、8時30分から下桶川地区、仏崎地区、須崎地区の3カ所に給水車を配置し、給水を開始しました。その後、午前11時ごろに仮設電源により送水ポンプが稼働しましたので、徐々に給水が可能となりましたが、高台等の水圧の低い土地等への対応として、17時ごろまで給水タンクの配置を続けておりました。

以上でございます。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 停電による断水に対し、市の水道局では対応されたということがわかりました。

また、中には市の水道水をとってなくて、ボーリングしてポンプを回してくみ上げている家庭もあり、停電状態で使えず、水道水をもらいに行ったという話も聞くところでもあります。一番、停電が悪かったなと思っております。

いつもというか、龍ヶ岳町の時代には、台風が過ぎると、建設業組合の人たちが朝早くから台風の後片付けをして、本当に台風が来たのだろうかというぐらいに、ちり一つないように掃除をされておりました。しかし、今回はそういうことはなく、もうずっと、いつまでたってもまだ台風直後のような状態が見受けられました。現在、建設業組合のほうでは、そういうことはしてられないのでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） 建設業協会との協定等ですけれども、台風災害やその他の災害ですが、今回の台風のみならず、6月11日の豪雨を受けまして、現在、建設業協会との災害協定の見直しを進めております。今月中には新たな災害協定が締結される見込みであります。道路ですとか、漁港の施設ですけれども、市道や漁港、港湾など施設管理者として、建設業協会その他の関係機関と連携しながら、早期の復旧に取り組む一方で、安心・安全なまちづくり、災害に強いまちづくりの実現に向けた施策を展開していこうと考えております。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 建設業の人たちも、最近は仕事がなく、以前からすればそういう余裕もない状態かもしれません。元区長をされていた人で、この台風の後の掃除について、県下一斉の大掃除があるみたいに、災害の後、市民皆で後片づけというか、そういう掃除をするように市のほう呼びかけられれば、私たちも皆協力するのにな、と言われる方もおられました。そういうことについては、どう思われますか。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） 総務課のほうにも、例えば、地域にちょっとしたがれきが市道に飛散していたりという情報が入ってきて、それを集めたけれどもどうしたらいいのかという連絡も入ってきております。当然、そういったものの処分については、市のほうで対応するというのを、ホームページでも周知したところではありますけれども、そうしたことも含め、今後、十分検討していく事柄であると思っております。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） よろしくお願ひします。

では、11番目にいきます。龍ヶ岳統括支所では、発電機の故障で停電だったと聞いています。市民に対しての放送も全然なく、何か龍ヶ岳町だけが孤立状態であるような感じでありました。この発電機というのは、大矢野や姫戸、松島などの停電していないところから持ってくることはできなかったのでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 市民生活部長。

○市民生活部長（緒方 雅文君） おはようございます。

姫戸、松島、大矢野のほうから持ってくることはできなかったのかという御質問ですけれども、ほかの庁舎においても、大型で移動可能な発電機は備えておりません。龍ヶ岳のほうに発電機を2基備えておりますが、携帯用の容量が小さいものであるために、十分な発電、電源は確保できないというところでございます。したがって、コンセントがついている照明器具とか、電気容量の小さい機械等はその発電機で対応したところでございます。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） わかりました。龍ヶ岳町の、その故障した発電機の耐用年数は何年かということと、いつ購入されたのかをお聞きします。

○議長（田中 勝毅君） 市民生活部長。

○市民生活部長（緒方 雅文君） 発電機の購入は、昭和53年3月でございます。耐用年数は一応20年ということになっております。現在、37年が経過しているところでございます。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） それで、いいんでしょうかね。

○議長（田中 勝毅君） 市民生活部長。

○**市民生活部長（緒方 雅文君）** 発電機自体、常時稼働しているものではございませんで、年に1回あるかないかの頻度ということでございまして、毎年定期点検を行っておりますし、その定期点検においては問題なく稼働しているということでございます。

今回の故障の原因としましては、後で業者のほうからお聞きしたところですが、停電時間が長くて、稼働時間が長かったために、発電機室内の換気が悪くなって、その機械内のオイルの温度が異常に上昇したことによってストップしたということでございますので、今後については、作動時は機械室のドア、あるいは機械のカバー等をオープンにして、換気等を十分にすることで対応できるのではないかと考えております。

以上です。

○**議長（田中 勝毅君）** 北垣君。

○**10番（北垣 潮君）** やはり、耐用年数が過ぎているものは、もうかえたほうがいいのではないかと私は思います。そうしないと、市民の皆さんの批判、非難といいますか、いろいろ多いんですよ。

市長、どうでしょうか。この耐用年数を過ぎた、37年もたつ発電機をそのまま使うということは。今回も停電になったし——。ずっと使い続けていく考えですかね。

○**議長（田中 勝毅君）** 堀江市長。

○**市長（堀江 隆臣君）** おはようございます。

災害時の発電機については、今回、停電が長引いたために動かなかったということではあるんですが、今後も停電時間が長引く場合がある可能性は十分ありますので、そういったときも稼働できるような体制をまず整えたいと思います。それで、耐用年数を過ぎてかえなければ運用できないということであれば、かえなければならぬと思っていますが、専門の方やそういったところの意見を聞いて判断をしたいと思っています。

○**議長（田中 勝毅君）** 北垣君。

○**10番（北垣 潮君）** 前向きな判断をお願いします。

13番目にいきます。台風による倒木が各地にあり、根こそぎ倒れて土地がえぐられています。雨水が多くたまり、私は土砂崩れの心配もしているところであります。今後、どのような対応をとられるのか、お聞きします。

○**議長（田中 勝毅君）** 建設部長。

○**建設部長（澤村 弘史君）** おはようございます。

現在の倒木への対応という質問でございますけれども、今回、建設課で把握している公共土木施設への倒木につきましては、市道関係、ポンツーンあたりを含めて32カ所ありますけれども、特に、現在、交通等の支障となっている倒木については、随時、撤去及び処分をしているところでございます。

そして、2次災害につながるものということで御質問でございますけれども、現在のところは確認はしておりません。また、今後、そういった案件が確認された場合は、随時対応していき

いと考えております。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 権現平の山側の崖といいますか、倒木のあとに崩れて、今、ビニールシートで応急処置をされております。そこはすぐ崩れたわけですがけれども、私が見たところでは、ほかにもいっぱいあります。

16番目に、台風後の崖上等の被害状況を把握するためにドローンの導入を検討してみてもどうかということを書いておりますけれども、これは、下からでは見えないところが多いんですよね。私も23日に東京に行ったとき、秋葉原をずっと見ていたら、ドローンがいっぱい置いてありました。小さいものから大きなものまであったので、ああ、これは何か使えないものかなと。私の仕事には使えないような感じがしたものですから、そのときは見送ったんですけども。この台風の後、上のほうまで見に行けないとか、職員さんたちが見回っているときにそういう状況もありましたので、市のほうでドローンの導入を検討してみてもどうかということで入れました。その辺はどのように検討されますか。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） 議員御指摘のとおり、実際に高いところから把握しやすいというのはそのとおりでございます、ドローンという形ですがけれども、実際の被害調査に当たっては有効な手段とは考えておりますので、迅速で適切な把握方法を、今後、検討していきたいとは考えております。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 確かに、私も今度の台風の被害の跡を見て、ドローンがあればちゃんと上からも見えるので、被害の状況もわかるし、ドローン自体もそう高いものではないしいいのではないかなと思いましたので、検討をしてもらいたいと思います。

前後しましたけれども、台風の後に来る漂流物については、どのような対応・体制をとっているのかということをお聞きします。

○議長（田中 勝毅君） 建設部長。

○建設部長（澤村 弘史君） 漂着物の対応ということで御質問でございますけれども、建設課で、市が管理する港湾区域内の海岸への漂着物につきましては、環境衛生課や農林水産課と連携を取りながら、国の補助事業を活用して、撤去、処分等の対応を行っているところでございます。

今回の台風の状況につきましては、現在、確認をとっているところであり、漂着が確認され次第、収集運搬の業務委託を発注して処分を進めていく予定でございます。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 今回の台風は、球磨地域のほうは、余り雨が降らなかったと思います。流木とかもほとんどありませんでした。いつも流れ着くのが、金曜日の午後や土曜日で、電話してもすぐ対応してもらえないときがあります。土曜、日曜と間があれば、風はいつも一定の方向に吹いていないので、土曜日には反対側に風が吹いて港の中に入ったり、姫戸・松島のほうに流れていくわけです。さっと対応できる体制をとっていただけないでしょうか。市役所が休みでも動ける仕組みづくりをお願いしたいと思います。

○議長（田中 勝毅君） 建設部長。

○建設部長（澤村 弘史君） そういった部分も含めて、今後、検討させていただきたいと思います。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 今回の停電の状況等を踏まえ、今後、停電しないように九州電力との協議の場が必要ではないか。また、龍ヶ岳地域では携帯電話が通じにくい、固定電話が通じない、そういうこともありました。電話会社との協議も必要ではないかと思います。

また、今回の台風の教訓として、やはり、今、九州電力のほうからも応急措置として木の枝を切っておられますけれども、電線のそばの木を切ることが一番必要だと思いますので、その辺も九州電力との協議の場が必要ではないかと思います。そのあたりはどう捉えておられますか。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） まず、停電の件ですけれども、九州電力とは9月2日に実際に協議をさせていただきました。今回のような停電が発生した場合の情報提供や連絡体制についてお願いするとともに、台風災害等に強い電力供給体制や迅速な復旧についてもお願いしたところでございます。また、携帯電話に関しましては、電波利用のシステム上やむを得ない部分もあることから、協議は難しいのではないかと考えております。

それと、電柱付近の木の伐採についてですが、これも九州電力に確認しておりますけれども、保安上問題がある場合に、所有者確認等をした上で、九州電力の営業所のほうで伐採しているということですので、実際にそういった状況があれば、まずはその各営業所まで御連絡くださいということをお願いしております。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 私も、以前は、地域の集落の木が、木の中から電線が出ているような状態でしたので、九州電力のほうに電話をして切ってもらっておりました。今回のように、まさか、ああいうふうな台風で倒木があって、電線に倒れかかるとことは思っていませんでした。私も反省するところであります。市のほうからも、木が倒れれば電線にかかるようなところは調査して、九州電力のほうにも対応できればと思いますので、その辺をよろしくお願いします。答弁をお願いします。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○**総務企画部長（川端 義孝君）** 前回、1カ月ちょっとぐらい前もこういった状況で、国道付近でも目につくような状態ということは、連絡は差し上げたところではございます。ただ、九州電力が出来ないのであれば市で伐採することはできないかということに関しましては、市が管理する市道や農道の周辺の樹木につきましては、当然、こちらのほうでも伐採対応は可能だと思っております。今後、その付近で、九州電力と十分に情報共有を図りながら、必要なところを連絡していくなど、そういう体制を整えていきたいと思っております。

以上です。

○**議長（田中 勝毅君）** 北垣君。

○**10番（北垣 潮君）** 17番目に書いてありますが、市内に自主防災組織は組織されているのか。組織されていれば、今回の台風時の活動状況をお聞きます。

○**議長（田中 勝毅君）** 総務企画部長。

○**総務企画部長（川端 義孝君）** 市内に自主防災組織は組織されているのかということと、また、今回の台風時の活動状況ということでございます。

平成27年9月1日現在におきまして、自主防災組織の組織率は90.55%で、98団体となっております。全体の戸数的に1万996戸ある中で、9,957戸が自主防災組織を組織されているところでございます。

今回の台風で各自主防災組織がどのような活動を行ったのかという調査は実施しておりませんが、取り組みの事例として、こちらに一つだけ、こういったことを取り組みますとあったのが、松島町のほうの1・2自治館自主防災組織、これは今泉地区ですけれども、台風接近前に地元公民館に自主防災組織の役員さんが参集されまして、台風対策を協議するなど、自主的に取り組まれているということを伺っております。

以上です。

○**議長（田中 勝毅君）** 北垣君。

○**10番（北垣 潮君）** 今回の台風の教訓として、市民に対して、台風の風向きや位置、暴風圏の範囲など、西側・東側何キロメートルが暴風圏といった詳しい情報を随時提供できないものかなと、そういう声もありました。今、どの辺を台風が進んで行っているとかいうことですね。

それから、ひとり暮らしの高齢者の方の安否確認といいますか、2日も停電があった地域では、それが必要ではなかったのかなと私は思いました。停電が2日続いたために、健康状態が悪くなって病院に行かれたという話も聞いております。その辺は、長く停電したところと余り長くなかったところの差があると思いますので、そういう2日も停電があったところは、今回、本当は安否確認といいますか、見回りが必要ではなかったのかなと。今回の台風の反省として、私はそう思っておりますが、その辺はどう考えておられますか。

○**議長（田中 勝毅君）** 総務企画部長。

○**総務企画部長（川端 義孝君）** まず、台風情報の発信についてですけれども、防災上の情報

については、要点をまとめて、簡潔に市民の方に伝達するという心を心がけております。風向きなどの詳細な情報までの提供につきましては、これはちょっと現実的にかなり難しいと思っております。実際の風向きは、先ほど議員が申されましたとおり、なかなか情報どおり、また、その地区ごとで、上天草市も広がっていますので、そこを個別的にというのは、気象情報からも無理ではないかと思っております。一般的な風向きなどを無線等で周知するのは、かえって混乱を招くおそれがあるのではないかと思っております。気象情報につきましては――。

○議長（田中 勝毅君） 残り1分を切りました。

○総務企画部長（川端 義孝君） それぞれのところで最新の情報を入手されまして、早目の防災対応を心がけることが重要であると認識しております。また、高齢者の安否確認についてですけれども、台風の翌日に、市内全域につきまして、区長さん等を通じて被災状況の調査を実施したところでございます。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） ちょっとそれは違うような感じもします。回ってこれなかったという話も聞いておりますので。台風の風向き等については、携帯電話で聞けば、そこまで教えてくれますので、その辺の情報も伝達できるのではないかなと思いました。

時間が経過しましたので、これで終わります。

○議長（田中 勝毅君） 以上で10番、北垣潮君の一般質問が終わりました。

ここで10分間休憩いたします。

休憩 午前11時02分

再開 午前11時09分

○議長（田中 勝毅君） 休憩前に引き続き、再開いたします。

宮下昌子君より資料の配付について申し出がありましたので、会議規則第157条によりこれを許可します。

6番、宮下昌子君。

○6番（宮下 昌子君） 6番、日本共産党、宮下昌子です。通告に従い、質問をいたします。

まず、前島地区総合開発事業についてですけれども、通告の要旨の順番を少し変えてしたいと思います。

この、前島地区総合開発ですけれども、7月に民間企業がお店をオープンされました。私も、御案内いただいた内覧会と、その後、二度ほど足を運んでみました。私の個人的な感想としては、店内や全体的な雰囲気も大変おしゃれで、四号橋を中心にした景色は大変すばらしいもので、観光客の方も喜ばれるのではないかと思います。また、お天気のいい日は、夕日がちょうど四号橋のところに沈んでいきますので、景色も最高ではないかなと思います。今後、道路の拡張も予定されていますし、屋外トイレも計画されているようですので、事業としては、少しずつ進んで

いくのかなと思います。

この施設オープンからやがて1カ月半が過ぎ、とりあえずは少し落ち着いてきたころかなとも思いますが、地元住民や観光客など、何か問題は発生していないのでしょうか。お尋ねいたします。

○議長（田中 勝毅君） 経済振興部長。

○経済振興部長（村川 和敬君） 御質問の住民や事業者とのトラブルにつきましては、現在までのところ、関係者からも特に御意見や情報等は寄せられていない状況でございます。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 今のところはないということですが、私もオープンした後、オープンされた新しいお店の方とか、既存の施設の方にいろいろお話をお伺いしました。そのとき、リゾラテラス天草の方からは、手すりのことで要望がありました。海側で、ちょっとお客さんが危ないということで、今はプランターを置いているんですよというお話でしたけれども、今回の補正でその手すりの工事については上がっているようですので、これは解決されることだと思います。

あと、シードーナツとか天草パールセンターですか、あちらに既存の施設がありますけれども、そちらのほうの方からは景観が悪くなったというお話があったんですね。それで、私も実際に行って見てみましたが、確かに天草パールセンター側のほうにリゾラテラス天草の方がコンテナを置いて、そこの上にも展望所みたいにして、四号橋のほうがちょっと見えるような形にできておられます。その後ろにずっと板張りがしてあって、シードーナツ側のほうから見ると、ちょうど正面の橋が見えなくなってしまっていたんですね。ああ、確かに景観が悪くなったな、と思いました。

その後、また行ったときに、今度はのぼりがずっと立ててあったんですね。何か、ますます景観が悪くなったなと思いました。四号橋を見るためにはずっと歩いて、あの海側のほうまで行かないと見えないということもあったので、その辺は当事者の話し合いかなとも思いますが、そこの方にお聞きすると、当初の予定と大分変わったのではないかということでは言われました。その辺が、既存の施設に対して、新しく進出してくる方の配慮といいますか、そういうことをすべきだったのではないかなと思うんですけれども、このリゾラテラス天草というのは、市の土地に建ちました。市が進めるこの前島地区総合開発の一つということで、いわば市が誘致した企業ということにもなると思うんですけれども、今後、この前島を観光拠点としてさらに発展させていく上でも、既存の施設の方とか、そういう人たちも一緒に頑張っていけないと思うんですが、その辺のことについては、市は把握はしておられないのでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 経済振興部長。

○経済振興部長（村川 和敬君） そちら辺につきましては、やはり、事業者様がお互いの協議の中で決定していただくのが最良かと私たちも考えております。私たちもそういういろいろな

要望等、各事業者さんの要望等は把握はしておりましたけれども――。

○6番(宮下 昌子君) しておりますと。

○経済振興部長(村川 和敬君) はい、把握しておりましたけれども、一応、お互いの事業者同士で協議をしていただくということで、その協議をしたという話も伺っております。

○議長(田中 勝毅君) 宮下君。

○6番(宮下 昌子君) では、その協議をされてから、その結果も聞いておられますか。

○議長(田中 勝毅君) 経済振興部長。

○経済振興部長(村川 和敬君) その後は、先ほど申し上げたとおり、事業者さんからの、お互いの考え方といいますか、そちらのほうは特には伺ってはいないというところです。

○議長(田中 勝毅君) 宮下君。

○6番(宮下 昌子君) そうですね。お互いの、企業間の話し合いだと思いますけれども、先ほども言いましたように、いわば市が誘致した企業という形になると思いますので、その辺は企業間の話し合いということで第三者的な立場をとるのではなく、やはり上天草市もあの前島地区を観光の拠点として、これからももっと観光客をふやすようにしていくというのがあるわけですから、そこにある施設の方や、もちろん住んでおられる地域住民の方たちが、皆さんで「よし、ここを何とかしていこう」とお互いに相乗効果が出るようなことにしていかないと、企業同士といいますか、企業と地区住民といいますか、相反していれば発展はしていけないと思うんですね。そのためには、企業同士でなかなか話がうまくいかないときには、やはりそこに市も入って、お互いに歩み寄って、いい話し合いができるようにすべきではないかと思うんですけれども、その辺はいかがでしょうか。

○議長(田中 勝毅君) 経済振興部長。

○経済振興部長(村川 和敬君) 御意見ありがとうございます。

今後、いろいろな施設の整備を計画しておりますので、そういうことも踏まえて、やはり前島地区住民の皆様や事業者の皆様の御意見を伺うことは、もう当然であると考えております。今、リゾラテラス天草の施設ができ上がった時点で、各事業者さんのこれまでのいろいろな御意見もお待ちしておりますので、そちらのほうは今から伺ってまいりたいと思います。

○議長(田中 勝毅君) 宮下君。

○6番(宮下 昌子君) やはり、上天草市民の皆さんも期待しておられる事業だと思いますので、ぜひその辺は、みんながうまくやっていけるような努力はすべきだと思います。もちろん、企業同士の努力も必要だと思います。それと、実は、浄化槽についてのお話もありました。ただ、浄化槽なんかはどうしようもないわけですから、その辺はお話し合いだったと思うんですけれども、においがしたりするというので、その辺は何か薬を入れたり、においがしないようにという努力もしておられるようです。

ただ、景観が悪くなったところ、あそこの施設などは、もう少し努力していただければ、コンテナですので、もう少しどうにかできるんじゃないかなと思います。それと、あそこの上が上が

ってわざわざ景色が見られるようにしなくても。だから、板をはずすとか、そういうことは何かできるんじゃないかなと思いましたが、その辺のことについては、そういう声があるということで、市もきちんとしていただければと思います。

既存の施設の方も、どうにかしたい、あそこをもっと発展させたいという思いはいろいろあるようですので、そこにはやはり市も介入して、あの前島地区をもっと観光客に来ていただけるような施設にするためには、ぜひ今後も、ちょっと耳を傾けていただければと思います。

次に、市が購入した民有地、ヤマハの跡地ですけれども、現在見てみますと、車がいっぱいどまっており仮駐車場として利用されているようですが、当初、市は観光交流拠点施設及び観光活性化拠点施設を建設するという計画でした。事業の見直しにより、現在はストップの状態となっております。堀江市長も、今後どうするかということは考えておられると思いますが、市民の方からも、あそこはどうなっているんだ、どういうふうにしたいと思っているんだということで、市の考えを聞いてほしいという声がありましたので、今回、質問に出しました。今後の活用については、どのように考えておられるのか。

これは市長にお聞きしたいと思います。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） マリーナの跡地についてですが、現在、従業員用の臨時の駐車場として、前島地区周辺の複数の施設に対し、来年の3月まで期限を切って有料で貸し付けをしているという状況です。

○6番（宮下 昌子君） 有料。

○市長（堀江 隆臣君） はい。現状としては、そういう要望があったということで、ちょっと対応しているところです。

今後の活用についてですが、前島、そして千巖山の総合開発ということで、今、事業申請を行っています。それで、国土交通省の社会資本整備総合交付金というものを活用しながら行うという計画になっています。その中で必ずやらなければならない事業というものがあまして、今、前島地区で行っているんですが、今後、当然、千巖山も投資をしていかなければなりません。その中の一つとして、マリーナの跡地に対しても、行政の主導、いわゆるPFIであるとか、公設民営とか、いろいろな手法はあるんですけれども、その中でも、行政の理念であそこに観光拠点の施設をつくるということが必須の条件となっています。ですので、今、5カ年計画の中で2年目なんですけど、当然、5カ年計画の中にはそういった施設を計画しなければなりません。そういうことで、今、最初の段階としては、観光拠点施設ということで余り具体的ではなかったわけです。具体的でないまま事業を続けたとしても、なかなか集客ができる施設にはならないだろうということで、少し時間を置いて考えようということにはしています。

そしてもう一つ、交差点協議がありますが、やはり今回のリゾラテラス天草のオープンに対しても、渋滞が発生するのではないかと大変心配をされていましたが、今回は本当に前島が原因となった渋滞が起こったという報告は今のところあっておりませんので、多少は胸をなでお

ろしている状況です。

今回、観光拠点施設をつくった場合に対しても、やはりそういったところの心配をされますので、事業の実行としては、交差点協議がある程度めどが立った段階で事業に入りたいというのが我々の考えです。ただ、先ほども言いましたように、5カ年計画の中では何らかの事業を行わなくてはならないというタイムリミットもありますので、そういったところは意識をしながら、どういったものが核となるかをまず決定をして、やっていきたいと考えています。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） わかりました。5年以内ということですが、そのうち1年は過ぎたということですか。今、2年目ということですね。行政が主体となってやるということが必須の条件だと先ほどおっしゃいましたが、その辺のことは私もちょっとうかつでした。民間を活用して、いろいろやったらいいのではないかとも思っていましたので、その辺は今後、少し――。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） 民間との協力、検討の余地があるというか、可能性としてはあります。ただ、どちらが主導していくかというレベルなんですよね。ですから、お隣のリゾラテラス天草は建物の運営は民間の方がされていますし、当然、投資も民間の方がされています。そういった手法も取り入れることができるんですけど、運営としての運営というか、その考え方の主導を行政でやるというのが、一つ、国土交通省から言われていることだという報告を受けています。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） わかりました。私も上天草市はやはり海がメインじゃないかと思うんですけども、やはり夏がお客さんも多くて道路も混雑します。それで、前島地区に新しくお店がオープンしましたので、私もかなり道路の混雑は心配しましたが、今のところ、そんなにまだ混雑というのは。雨の影響もあるのかどうかわかりませんが、あそこがオープンしたことによって道路が相当の混雑があったということは今のところ見えませんでしたので、ちょっと安心していますけれども。

ただ、今のままではやはり、あその前島地区というのは、海中水族館シードーナツと、天草パールセンター、新しくオープンしたところはお土産とお食事ということで、その辺を見てみますと、今のところ、極端にそんなに観光客がふえる要素はまだそんなにはないのかなと。私が利用する立場として考えたときに、そんなふうに思いました。

それで、市長は今から5年以内にといいことで考えていくということでしたけれども、前島・千巖山総合開発は、たしか前市長が年間100万人と言われたと思うんですけど、観光客を呼び込むということで始まったと思います。私は、千巖山は別として、やはり前島地区は海を生かした何かをしなければ、それも単なるお食事処とかお土産物屋さんだけでなく、もっと何か観光客を呼び寄せるような施設をつくらなければ、今以上は、余り観光客はふえないのかなと思います。協議会もあるようですので、ぜひその辺は、市民の方や民間の業者の方たちの意見も聞いてやっ

ていかなければならないと思います。身の丈に合った開発が最良ではありますが、市民がみんなでよりよいことを出し合って考えて、私の個人的な意見としては、できれば海を生かした何かということやっていければなと思います。

今2年目ということなので、あと3年ぐらいですかね。その中でしていくということですが、市民の皆さんからも、どうなるんだ、どうするんだろうか、という声があちこちから聞かれますので、ぜひ市民の皆さんのほうには早目に、こういう計画なのだということはお示しをさせていただきたいと思います。

次に、市立図書館についてお伺いします。

大矢野森記念図書館については、建設に向けて基金も積み立てられていましたが、現在、建設は一旦見直しとなり、白紙の状態になっています。私も大きなお金をかけて新しい図書館を建設するには反対の立場でしたので、この見直しについてはよかったと思っています。しかし、白紙になってから、今後どうするのかというのがまだ見えてきません。市民の皆さんからも、どうなっているのかという問い合わせがありました。皆さんも御存じのように、大矢野森記念図書館は建設から38年が経過し、雨漏りや傷みで危険な状態になっています。それに、場所も丘の上ということで、市民の皆さんには利用しづらく、建物自体も狭い階段を2階へ上がらなければなりません。前にとられたアンケート結果でも、その不便さが利用者が減っている理由の一つにもなっているようです。

市長もいろいろとお考えがあらうかと思いますが、この大矢野の図書館の先行きについては、今後の計画はどのようになっているのかということについてお尋ねします。

○議長（田中 勝毅君） 教育部長。

○教育部長（舩本 伸弘君） 御質問の建設計画について、御説明申し上げます。

図書館建設につきましては、本年3月の第1回議会において市長が質問を受けられまして、図書館を本格的に改造すると基金の額では不足する。また、基金の予算の枠内であれば方法が限定されることから、時間をいただきたいという答弁があったところでございます。その指示を受け、既存図書館の状況や建設の必要性、建設基金の有効利用等を含め検討を行っているところでございます。

具体的には、現在、上天草市立図書館協議会に対し、上天草市の市民度に適した図書館事業のあり方についての諮問を行っているところでございまして、本年度、数回の審議を経て、平成28年3月末には御意見がいただけるかと思っております。また、この中で、図書館のあり方についての御意見もいただけるのかなと思っております。また、7月に実施しました総合教育会議におきましても、市長より教育委員に対して、図書館のあり方について意見をまとめたところでございます。それらの内容を踏まえ、また、市の財政状況や大型事業の優先順位等を考慮しつつ、大矢野の図書館の整備等について具体的な検討を行っていく所存でございます。

以上でございます。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番(宮下 昌子君) 平成28年3月末までに図書館協議会に対して諮問して、そこからいろんな意見が出てきて、それをまとめられ、その後、教育委員会としてどうするかということを考えられるということでしょうか。

○議長(田中 勝毅君) 教育部長。

○教育部長(舛本 伸弘君) 概略はそのように考えております。

○議長(田中 勝毅君) 宮下君。

○6番(宮下 昌子君) 来年の3月から、そして、図書館を建設するなり改修するなりということで、かなりまだ時間を要すると思いますけれども、現在ある大矢野の図書館についてはどのようになっていますか。

○議長(田中 勝毅君) 教育部長。

○教育部長(舛本 伸弘君) 済みません、図書館の現在というのはどういった――。

○6番(宮下 昌子君) 今、私が言いましたように、現在、図書館は雨漏りや傷みなどで危険な状態になっているということで、その雨漏りなどはもう修理をなさったのか。それとも、今後、どのように改修なり何なりしていかれるようになるのか。随時なのか、どうなのかということですか。

○教育部長(舛本 伸弘君) 失礼しました。一応、現在の森記念図書館につきましては、御指摘のあったとおり、対応すべき案件が発生した時点で補正等を行いまして、対応をしている状況でございます。

○議長(田中 勝毅君) 宮下君。

○6番(宮下 昌子君) では、その雨漏りにしろ何にしろ、発生した時点で補正をして、その都度、修理をしていって、今後、新しい図書館をどうするかということが決まっていますが、それまでは何とか大矢野の図書館をそのようにして改修していくということですか。

○議長(田中 勝毅君) 教育部長。

○教育部長(舛本 伸弘君) 御指摘のとおり、私たちも予防的に改修ができればいいのですが、どうしても予算上の都合もございますので、現在のような状態で、不都合が発生した時点での対応ということになると思います。

○議長(田中 勝毅君) 宮下君。

○6番(宮下 昌子君) これから、教育委員会なり図書館協議会なりでいろいろ考えを出されていくということですが、今の矢野の図書館を改修して使うというのは、それはちょっと無理ではないかと私も思います。それで、やはりどこかに移転して、新しい場所に建設するなり、既存の施設を改修して使うというのがベストではないかなと思います。今、あちこちでどんどん廃校がふえてきていて、大矢野でも廃校になった学校がありますが、よそを見ますと、廃校を利用しているところもあるようです。廃校を利用する場合には、いろいろ補助金制度もあるようですので、そういうものを利用すれば、基金がないと言わずに、いろんなことができると思います。図書館だけではなくて、例えばそれに附属した親子でいろいろ遊べる

施設ですとか、高齢者の方たちと子供たちが一緒に何かできるとか、そういういろんなことを考えれば、廃校を利用して行うこともできると思います。これは私の個人的な案ですけども、ぜひ、そういうことも考えていただければなと思います。

次に、図書館のあり方についてです。現在、市立図書館としては、中央図書館として松島町の総合センターアロマに設置されていて、あとの3町の図書館が分館として位置づけられているということで4館あります。そのほかに移動図書館が各町を回っています。

この図書館運営については、司書さんたちの努力もあって、貸出数も少しずつ伸びてきているようです。しかし、県下14市の中で見てみると、まだ最低なんですね。14番目なんです。蔵書数も少ないほうです。ここはもう少し工夫をしなければならないところではないかなと思うんですけども、上天草市の図書館のあり方、市長と教育長がお考えになる上天草市の図書館像というものをお聞きしたいと思います。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） 理想からいくと、私もやはり中央図書館的な機能を備えて、蔵書数も20万冊以上あればなと思いますし、地域のそれぞれの歴史とかそういった文献等もそろえたり、あるいはいろいろな学術的な面にも対応できるような図書館があればいいなという気持ちは、私としてもあります。しかし、現実的には、財源も必要ということもあるし、上天草市の環境というのが、天草五橋を初めとして、大きな橋だけでも九つでつながっているという特徴のある自治体で、どれかに中央的な機能を持たせたとしても、全ての地域に利便性があるかという非常に難しいと思っているんです。ということは、やはり機能を分散させてでも、ある程度、それぞれのエリアに図書に親しむことのできる施設を分散させて、そしてその四つの機能で連携をとるとかですね。そういった形のほうが、本来のあり方かなという気もしています。

先ほどからいろいろ御提案をいただいているところなんですけど、基金としても3億何千万円ということで、その財源からすると大きな建物をつくるというのは非常に難しい状況です。それで、おっしゃるように既存施設と抱き合わせでやるか、もしくは既存施設の改修のときに改めてやるかということになってくると思います。

学校の跡地の御提言もいただいたのですが、現時点で、例えば大矢野地区において、あいている学校施設というのはないと思います。それで、今後としては、中地区と維和地区の学校統合が現在検討されていますので、その中で空き施設が出てくる可能性は当然あるんですけど、それに対しても、もうしばらく学校統合というものをやはり優先して考えなくてはなりませんので、今の段階で施設があいているということではないです。ただ、それも可能性としてありますので、選択肢の一つとしては、我々も既に頭の中にはあります。ほかのやり方も含め、今、答申を待っている状況であります。民間の委員の方ですから、利便性とかそういったところも含めて判断をされると思っていますので、そちらのほうも少し御意見として参考にさせていただきたいと思いません。

○議長（田中 勝毅君） 教育長の答弁も要りますか。

○6番（宮下 昌子君） はい。

○議長（田中 勝毅君） 教育長。

○教育長（藤本 敏明君） 失礼します。今、市長が言われたとおり、私もそう思いますし、地理的条件からして、やはり各町の図書館を充実していく。そして、そこが本当に地元で親しまれる図書館であればいいなど。そして、先ほど言われました本市の住民1人当たりの図書貸出数が県下14市の中で最下位という、この課題をどうにかして脱却したいと。そのためには、やはり市長が言われるように、各町の図書館を充実することが一番だなと思っているところでございます。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） それぞれお聞きしましたけれども、今、廃校になっているところで利用できるようなところはないと市長はおっしゃいましたが、上の、あそこは今、何かに使われているんですか。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） 今、行政の書類の倉庫になっているんですよ。

○6番（宮下 昌子君） ああ、そうなんですか。空き教室とか、そういうものは全て倉庫になっているんですか。

○議長（田中 勝毅君） 教育部長。

○教育部長（舩本 伸弘君） 済みません。私も、詳細は確認していないんですけど、今、税務課のほうの書類で埋まっているということで聞いております。あとは地理的な部分もちょっと問題があるのかなというような解釈は持っております。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） そうなんですか。わかりました。

先ほど、市長と教育長に上天草市の図書館像というものをお聞きしました。日本図書館協会が毎年、「貸出密度上位の公立図書館整備状況」というものをまとめて公表しているんですけども、その中で人口2万人から3万人の自治体を見ても、これはトップクラスのほうですが、蔵書数が19万5,000冊。1人当たりの貸出数は11.6冊となっています。私も、なかなかここまでいくのは難しいと思います。しかし、こういうところもあるのだという一応の目安にはなるのではないのでしょうか。

そういうことで、図書館協会が毎年公表しているんですが、熊本県内を見ても、一番高い合志市が貸出数では10.7冊となっていて、ここは人口が6万人ほどいますので、上天草市と比べますと倍ですね。上天草市は1.4冊です。大体、同じような人口の自治体と何でも比べたりしますが、それでいきますと水俣市では3.43冊、宇土市では2.31冊となっています。上天草市の1.4冊と比べると、やはり違いがあると思います。

先ほども言いましたけれども、司書さんたちやそれぞれの図書館にボランティアさんがおりま

す。それで、その方々の努力で、図書館の利用者も少しずつですがふえてきているんですね。しかし、今の状況では、努力にも限界があるということです。やはり、後は教育委員会のほうでも後押しをして、どうしたらいいのかというのを、ここは真剣に考えないと。この最低という状態がずるずると、今までずっと来ていますので、この辺でもう少し本腰を入れて考えなければならぬと思います。

私が考える図書館サービスを実現するために必要なことはどんなことかというのは、まず、市民にとって、身近な図書館になっているかどうかということだと思います。あと、豊富な蔵書、資料があるかどうかということ。それと、経験豊かな図書館員がいるかどうかということではないかと思っています。

身近な図書館というのは、市民が利用しやすいような図書館になっているかどうかということですが、先ほど市長も言われましたけれども、上天草市は島が多くて橋がいっぱいかかっています。そして、地理的には縦に長くなっています。それで、中央図書館を立派で大きなものをつくっても、なかなか利用者はふえないと思います。身近な図書館というのは、やはり皆さんが歩いたり自転車などで行けるような距離にあるということではないかと思っています。公共交通もそんなに発達していませんので、車で行かなければならないようなところでは、まず皆さんが行かないんじゃないかなと思います。

それと、バリアフリーですけれども、アロマにはエレベーターがありますが、現在の姫戸や龍ヶ岳などの図書館を考えてみても、2階になっていて、障がい者の方や高齢者が利用しやすいかという点、その辺はちょっと考えなければならぬと思います。

豊富な蔵書や資料ということに関しては、やはり財政的なことがありますので、これは簡単にはいかない問題だとは思いますが、少しずつふやしていくという努力はすべきではないかと思っています。

あと、経験豊かな図書館員がいるかどうかという点では、現在の司書さんたちは嘱託職員ですけれども長く勤めておられる方が多くて、経験は豊富だと思います。しかし、今言いましたように嘱託職員ですので、次に継続してもらえるかどうかという不安な思いを持ちながら、1年ごとの計画しか立てられないということをおっしゃっていました。

この三つのことを改善していくことで、市民が利用しやすい図書館、つまりは貸出数がふえていくのではないかなと思います。図書館に来る人が少ないならば、こちらから地域に出ていく移動図書館の充実とか、親子で土日に来られるようなイベントを開催したり、仕事を持っている人が利用しやすいような開館時間の延長とか、いろいろ考えれば即実行に移せるものがあると思います。この開館時間については、毎日でなくても週に何日かは、もう少し時間を夜の7時や8時ですとか、仕事を持っている人が利用しやすいような時間にすることも考えられると思います。このことについてはいかがお考えでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 教育部長。

○教育部長（舩本 伸弘君） 御意見ありがとうございます。確かに、現在は夕方の5時や6時

等で閉まっております。御意見のとおり、夜間の延長なども可能とは思いますが、ただ、これもおっしゃるとおり嘱託職員対応となっております。また、そういった勤務体制の問題等でできていない状態が続いております。今後、図書館の運営のあり方自体も、行政ですべき部分、もしくはアウトソーシングをかけられる部分等ありますので、そういった中で市民サービスの向上につながる部分であれば、そのような検討もしながら、サービスの向上に努めたいと思っております。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） この利用時間の延長については、私もこれまで何度も要望してきたんですけれども、なかなか実行に移していただけません。これは先ほど部長から答弁いただいたように、司書さんが嘱託職員であることがネックになっているという答弁がこれまでもあっています。そこで、司書さんというのは特別な試験を受けて資格をとっておられる方ですので、やはり司書さんの正職員化というか。これも、これまで何度も要望してきています。司書さんを正職員として雇用するというので、いろいろなことがクリアできるんです。つまり、利用時間を延長したり、それから図書館の計画を1年だけでなく2年、3年の長期的な計画にするとか、そういうことがいろいろできるんです。そして、そのことによって解決できることがありますので、この司書さんの正職員化ということに対しては、どのように考えておられるのでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 教育部長。

○教育部長（舩本 伸弘君） 済みません。人事権等は、職員の適正配置の問題もございますので、あくまで教育委員会の立場と、また部長としての立場というものがありますけれども、当然、採用できるのであれば正職員化してほしいという思いはございます。また、先ほども申しましたとおり、一応、民間委託のアウトソーシング等でサービスが向上できるのであれば、そういった方法でも対応していいのかなとは思っております。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 民間委託というのは、図書館を民間委託するということですか。

○議長（田中 勝毅君） 教育部長。

○教育部長（舩本 伸弘君） まだ、するというわけではございません。ただ、そういった選択肢もあるのではなかろうかという私の考えでございます。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） いろいろな考えがあるということですが、図書館を民間に委託するというのは、私もちょっとそれは賛成できかねます。図書館はやはり市民にサービスを提供するわけで、利益を生み出すものでもありませんけれども、市民がもっと利用しやすいような図書館にするためには、先ほど私が言いましたように、ぜひここで、そういうことを一つ一つクリアしていかなければ、いつまでたっても最下位から脱することができないということになると思います。

これまで私は、図書館については、本当に何度も何度もこの場で要望してきました。しかし、一向に伝えていただけません。このままでいくと、まただらだらと時間が過ぎていってしまいます。新しい図書館を考えるのは図書館協議会のほうに諮問していると言われましたけれども、ぜひ近いうちに、大矢野の図書館のことも含め、上天草市の図書館としてのあり方を、もう一度ちょっと真剣に考えていただきたいと思います。

次に移ります。先ほどの図書館司書さんの正職員化ということも含めてなんですけれども、市職員についてに移ります。

上天草市は合併後10年が過ぎて、職員に関しては、数字上は150人ほど削減されていると思いますけれども、合併当初は、10年間で100人ぐらいの削減というのが目標ではなかったかと思います。2年前から、窓口業務も民間委託となっています。その影響もあり、大きな削減になっているのではないかと思います。まず、上天草市において、正規、非正規の職員数がどのようになっているのかという資料を提出していただきました。皆さんのところにも資料が配付してあると思いますので、ごらんいただきたいと思います。これは、老人ホームや病院を除いたものです。

平成16年4月1日、これは合併直後ですけれども、正職員が437人、非正規職員が179人、これは29%です。平成24年4月1日、これは窓口業務を外部に委託する前の年ですけれども、正職員が316人、非正規職員が182人で、これは37%になっています。そして、一番新しいもので、ことしの4月1日ですけれども、正職員が298人、非正規職員が202人ということで、もう非正規が40%になっているんですね。

表をずっと見てみますと、特に女性の非正規雇用が多いようです。これは、保育士さんとか学校給食、または学校関係があると思いますけれども、保育士のほうを見てみますと、非正規が62%です。もうほとんど非正規に頼らざるを得ないという現状です。これは、行政効率化の名のもとに正職員がどんどん減らされて、かわりに非正規雇用がふえているのが実態ではないかと思いますけれども、今現在、40%を超えるこの非正規職員ですが、この業務内容と賃金、待遇についてお伺いします。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） よろしく申し上げます。

済みません、その前に、一つ、資料の訂正をお願いしたいと思います。きょう出されました数字の訂正の分ですけれども、平成27年4月1日付の職員の配置状況という表ですが、市民生活部の税務課の欄の一番右、非常勤職員のところ。非常勤職員数で、うち女性一人という数字が入っているんですが、これはゼロに訂正をお願いしたいと思います。それで、一番最後の下段のところ、非常勤職員の女性という欄の156人が155人になります。済みませんが、よろしく申し上げます。

それでは、臨時職員、非常勤職員の勤務内容と賃金、待遇についてお答えしたいと思います。

臨時職員につきましては、緊急時などの臨時的に必要な場合において任用を行うものでありま

して、任用期間は基本的に6カ月となっております。更新が1回ということで、最長1年としているところでございます。また、非常勤職員につきましては、常勤職員の1週間当たりの勤務時間の4分の3、週の勤務時間として29時間となっており、この29時間を超えない範囲の勤務時間で任用を行うものであります。任用期間につきましては、3年を超えない範囲ということになっておりまして、専門的知識や技術等を要する場合は5年としているところでございます。

勤務内容についてですが、臨時職員、非常勤職員ともに、一般事務であったり調理員、保育士、看護師、作業員など職種に応じて多様であります。

賃金等につきましては、例といたしまして、一般事務の事務補助の場合は、臨時職員の場合は月額5,800円。非常勤職員の場合は月額11万8,000円。また、高度な知識等が必要な場合は13万円を支給しております。また、保育士や看護師の場合、臨時職員については月額6,300円、非常勤職員の場合は月額14万4,000円を支給しているところでございます。それと、いずれにつきましても、片道15キロメートル以上の場合は通勤に係る費用を1日に300円支給して、また、各種社会保険を適用しております。

待遇についてですが、服務につきましては、臨時職員、非常勤職員ともに一般の職員と同様とし、休暇については、6カ月間以上勤務された方で引き続き任用を更新される場合は、10日間の年次有給休暇等を付与しております。その他、親族の死亡や出産の場合などは、無給ですがそれでも休暇があります。また、非常勤職員につきましては、一般職の職員と同様に健康診断も実施しているところでございます。

以上でございます。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 自治労の調査によると、正規職員と非正規職員の業務は全く同じであるという、アンケートされた結果ではそういう回答が多かったということなんですね。特に、保育園や学校給食、学校用務などは全く変わらない業務内容ではないでしょうか。自治体が直接提供している公共サービスを、臨時・非常勤職員が基幹的に担っているという現状ですね。特に、この表を見ても、臨時・非常勤職員とも女性がかかなり多くなっています。私たち一般市民が窓口に行っても、どの方が正職員でどの方が臨時職員なのかということもわかりませんし、区別はつきません。賃金についても、先ほど部長から答弁がありましたけれども、手当、一時金、退職金というものはないので、多分、年収は200万円いかないのではないかと思います。いかがでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） はい。通常ですと、年収は200万円はいきません。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） そうですよ。やはり、200万円というのは生活できる水準のボーダーラインと言われております。働いても働いても生活できないという、つまり、ワーキングプアと言われておりますけれども、これは、今、全国的に、自治体でも臨時職員が多くなっているとい

うことで、官製ワーキングプアというものを生み出していると言われていています。上天草市も非正規が4割を占めているという現状です。私は、これはいささか正職員の減らしすぎではないかと思えます。正職員にしかできないこともあると思えますけれども、正職員が削減されてきたことで、何か弊害と申しますか、問題が起きていないのかどうか、その辺のことをお尋ねします。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） 非正規職員が多くなったことによる弊害ということですが、

○6番（宮下 昌子君） 非正規職員が多くなったからではなくて、正職員が減ってきたことによる弊害です。

○総務企画部長（川端 義孝君） 正職員が減ってきたことによる弊害というものについては、これは統計というか、調査していかなければならないのですが、当然、残業等は若干ふえているような状況ではあります。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） そうですね。私も、よくこの前の国道を夜遅く通ったりします。すると、かなり遅くまで電気がついている階があります。11時ごろ通ったときも、まだ電気がついていたところがありました。土曜日や日曜日でも電気がついていることもありまして、かなり職員の方たちが無理をしているのではないかなと思いました。市民の皆さんの中には、公務員が多すぎるから減らせとか、そういう意見も多々あります。しかし、行政サービス向上のためには、私はこの余りの職員削減はいかなものかなと思えます。

これはうちの職員の話ではなくて、ほかの自治体の職員の話ですが、正職員としても、同じような仕事をしている非正規職員に対して待遇などで何か申しわけない気持ちもあり、働きづらいという声もありました。正職員しかできない業務、正職員が責任を持つべき業務がもちろんありますけれども、非正規職員で長く働いていけば若い正職員よりも知識が豊富な方たちもおられます。上天草市のような地域では、都会と違って、役所というのは大きな働き場所でもあります。私は、今の職員のバランスがいいとはとても思えません。採用も、社会人枠というものがありますので、特に、先ほど言った図書館司書や保育士などの専門性のある職員は正規職員で雇うべきだと思いますが、市長はいかがお考えでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） お気持ちはよくわかります。職員が多すぎるという御意見もあるし、逆に、残業が多くて電気がついていて、それを御心配される御意見もあって、実はいろいろな御意見が来ているところです。ただ、全体として考えると、今後、やはり行政も効率化を図っていかなければならないのも事実です。公務員というか、職員が今後ふえるということはほぼないのではないかと、私は思っています。やはり、今いる中で、どうやって行政の効率を上げていくか、要は業務としての効率を上げていくか、職員をどう配置するかなど、そういった部

分の検討はやはり随時していかなければなりません。ですから、やはり、今後のことを考えると、行政も効率化を図る。そして、今、行政が担っている部分をどういった形で地域の方に担っていただけるか、あるいは行政の業務をNPO法人の育成などで民間にどうやったら移管できるかとか、そういったことを考えていかなければならない時代に、今、あると思っています。

そして、お話の中で女性職員のこともちよっとありましたが、まだまだ登用率が低い状況でありますので、その分については、今後、女性職員の登用もやはり考えていかなければならないと思いますし、あと、採用についても、採用試験をもっともっと受けていただきたいと思っています。ただ、そういったところは啓発も必要かなとも思っています。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） これ以上職員がふえていくのは無理だろうというような意見でしたけれども、私はやはりこの正規職員と非正規職員のバランスがよくないと思います。私の意見としては、やはり正職員をふやすべきではないかなと思います。結果的には、職員の皆さんが生き生きとして働いて、市民に対してもよいサービスが提供できるということになると思いますので、そのあたりのことをよく伝えれば、市民の皆さんにも御理解いただけると思っています。

ここに、年齢別職員構成の状況というものもありますけれども、このグラフを見てみても、やはり若い人たちが少ないですよ、バランスが——。先ほど市長もおっしゃいましたけれども、やはり採用時に女性の採用をふやす。例えば、今一番多いのが56歳から59歳までという年齢層なのですが、この方たちが定年退職していかれると、どっとまた減ってくるわけですよ。年齢的なものもあります。そして、将来的に管理職への登用などを考えると、やはり毎年バランスよく女性も含めて採用していかなければ、女性の管理職への登用というものは難しくなってくるのではないかと思います。

先ほど、市長が女性の登用についてもお答えになりましたけれども、つい先日、ことしの8月28日に女性活躍推進法が成立しました。私の調べでは、現在の上天草市は部長がゼロ、課長が2人、課長補佐が1名、係長が17名となっていましたけれども、ぜひ、この議会の場に、部長席に女性の方が出てこられるよう、早くそうなるように、私は希望しております。職員採用のほうも含めて、女性もたくさん採用していただいて、職員の皆さんが生き生きと活躍できるような、そういうことをしていただければと思います。そのことをお願いして、きょうの私の質問を終わります。

○議長（田中 勝毅君） 以上で6番、宮下昌子君の一般質問が終わりました。

ここで昼食のため休憩し、午後1時から再開いたします。

休憩 午後 0時11分

再開 午後 1時00分

○議長（田中 勝毅君） 午前中に引き続き、一般質問を再開いたします。

7番、西本輝幸君。

○7番（西本 輝幸君） 7番、西本輝幸です。今回は2点通告しておりましたけれども、雲仙天草国立公園千巖山展望所の管理と今後の対策については、ちょっと資料が足りませんでしたので、今回は取りやめいたします。部長には大変迷惑をかけました。済みません。しかし、12月の議会で再度挑戦したいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

では、通告しておりますので、観光循環バス、パライズストローリーの運行について質問いたします。

この事業については、平成22年度に過疎地域等自立活性化推進交付金により、地域の課題に対応するために100%の交付金を活用して、地域公共交通機関と連結する2次アクセスの強化を図る目的で、実証実験として運行開始されています。平成23年度には、地域づくり夢チャレンジ推進事業として運行され、平成24年度からは交付金はなく、一般財源を活用して運行されています。

運行から6年目を迎えていますが、本来の目的である観光客を増加させて地域の活性化を図る観光循環バスであるのかお尋ねをいたします。検証の意味で簡潔にお尋ねをいたしますので、よろしくお願いたします。

まず最初に、平成22年度から27年度までの財源内訳の詳細について説明をお願いいたします。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） よろしくお願いたします。

上天草観光循環バス、パライズストローリーですけども、平成22年度に、今、議員がおっしゃられました総務省の地域等自立活性化推進過疎交付金を使って開始しております。また、23年度につきましては、熊本県の夢チャレンジ事業を活用して実施させていただいております。

財源の内訳ですけども、まず平成22年度につきましては、事業費の合計が990万2,000円、財源の内訳といたしましては、国庫補助金が974万8,000円で、一般財源を15万4,000円としているところでございます。平成23年度につきましては、事業費が920万円で、県支出金、夢チャレンジの補助ですけども465万3,000円で、一般財源が454万7,000円となっております。平成24年度からは一般財源での対応となりますけども、事業費が881万2,000円で、その中身といたしましては、委託費のほかに広告料が69万9,000円、ガイド謝金が18万9,000円となっております。平成25年度につきましては、事業費の合計が987万円で、運行委託費が845万5,000円、広告料が72万5,000円、ガイド謝金が68万円、絵画が1万円となっております。平成26年度ですけども、事業費が973万9,000円で、運行委託費が847万3,000円、広告料が58万3,000円、ガイド謝金が67万2,000円で、絵画事業が1万1,000円となっております。27年度におきましては、事業費の合計が1,075万2,000円で、運行委託費が975万3,000円、広告料が38万円、ガイド謝金が60万円、絵画事業が1万9,000円となっております。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 西本君。

○7番（西本 輝幸君） 今の運行委託料の財源内訳がありましたけれども、27年度は後から聞きますが、この中に、ガイドの委託料が24年度から26年度まで合計で220万円ぐらい予算を組んであります。その中に、じゃらん8月号、リビング熊本など、運行委託料の中に計上されていますが、この広告の内容とか発信の内容とかどのようにされるのか説明をお願いします。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） 広告ということですが、基本的には情報誌への広告掲載と市ホームページで紹介しております。情報誌への掲載につきましては、九州じゃらん、リビング熊本、アヴァンティなどに広告を年に1回掲載し、発信しているところでございます。

九州じゃらんにつきましては、九州全域を対象とした旅行情報誌でありまして、平成24年から平成26年に掲載しております。リビング熊本につきましては、消費者の立場に立ったものやサービスを発信する情報紙ということで、平成24年と25年に掲載しております。

本年度につきましては、アンケートの結果を踏まえまして、これは福岡県から利用者が多かったために、主に福岡県域をターゲットにアヴァンティという福岡の情報誌ですが、掲載しております。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 西本君。

○7番（西本 輝幸君） 今説明がありましたけれども、22年度から26年度まで広告料が先ほど220万円と言いましたが、これは委託先はどこですか。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） 委託先につきましては、こちらのほうで広告料として上げますので、それぞれの今言ったところに、こちらのほうで契約している状況でございます。

○議長（田中 勝毅君） 西本君。

○7番（西本 輝幸君） では次に、同じく運行委託料の中にガイド謝金というのがありますね。これが22年度から26年度までは154万円ほど計上されていますけれども、ガイド会の会員は何名おられるのか。それと、実際の稼働人数は何人なのか。それともう一つ、この養成はどのようにされているのか。この点についてお願いします。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） 観光ガイドの会ですが、現在、会員数は21名になっております。そのうち、現在、実際に乗車していただいている人は7人となっております。それともう一つが何でしたでしょうか。

○7番（西本 輝幸君） そのガイドの養成は。

○総務企画部長（川端 義孝君） 済みません。ガイドの要請ですが、ガイドにつきましては、基本的に土日祝日に、時間帯が1日4便なんですけど、2便と3便に乗車してもらうような形をとっております。

- 議長（田中 勝毅君） 西本君。
- 7番（西本 輝幸君） ガイドさんが21名いらっしゃるでしょう。その中で、ガイドの養成というのはわからないですか。
- 議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。
- 総務企画部長（川端 義孝君） 養成というのは育て方ですか。
- 7番（西本 輝幸君） そうです。
- 総務企画部長（川端 義孝君） 済みません。基本的に観光ボランティアガイドにつきましては、平成18年12月に公募をしております、応募された方々を対象にさまざまな分野の方を招いて、学習会を平成19年1月から平成20年2月まで13回開催し、ガイドとしての研さんを深めまして、平成20年度に上天草観光ガイドの会が発足して現在に至っております。
- 以上です。
- 議長（田中 勝毅君） 西本君。
- 7番（西本 輝幸君） ガイドの会で一応養成をしますので、その案内というのは全部同じですね、ガイドさんの案内するのは。
- 議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。
- 総務企画部長（川端 義孝君） その講習を受けた上天草市の中の、さらにいろんな情報を発信しておりますので、基本的には同じ内容だと思います。
- 議長（田中 勝毅君） 西本君。
- 7番（西本 輝幸君） ならば、ガイドの会の21名の中に、ガイドをされた方、経験者の方はいないんですか。
- 議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。
- 総務企画部長（川端 義孝君） 基本的に会員さんが21人おられまして、そのうちの7名が順繰りガイドをされてるような状況ですね、実際に。
- 7番（西本 輝幸君） だから、私が聞きたいのは、21名の中にガイドをされた方はおられますかということです。わからないですか。
- 総務企画部長（川端 義孝君） 21名のその会員さんの中の7名の方がガイドをされてるということです。
- 7番（西本 輝幸君） 経験者ですか。
- 総務企画部長（川端 義孝君） プロですか。ではなくて、これは全く。
- 7番（西本 輝幸君） いやいや。経験された方は、21名の中におられるのですかと。前にガイドを経験されて、今回――。
- 総務企画部長（川端 義孝君） 基本的には、その21名の方は一般の方の公募になっておりますので、言うなれば素人の方という判断をしてもらっていいと思います。
- 議長（田中 勝毅君） 西本君。
- 7番（西本 輝幸君） わかりました。

次に、絵画についても、25年度から26年度について、2万1,000円計上されています。どのようにしてこの絵画を展示されているのか、この辺について説明をお願いします。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） 絵画事業ということですが、これは一つの施策、利用促進策として市民の方々に親しみを持ってもらうために実施しているものでございます。市内の保育園をパライズストローリーで巡回しまして、園児にバスの絵を描いてもらって、その絵を車内に冊子として設置しているもので、現在、166点の絵を冊子として設置しております。この事業では、園児にバスの乗車の仕方なども教えまして、園児も楽しみにしております、ひいては観光循環バスの認知向上につながるものと考えております。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 西本君。

○7番（西本 輝幸君） では、園児の絵画を車の中に展示しているということですね。ならば、上天草市の園児の方が描いて、その循環バスの中に冊子として置いてるということですか。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） 166点の絵を冊子として置いてるような状況でございます。

○議長（田中 勝毅君） 西本君。

○7番（西本 輝幸君） 今、3点について聞きましたけれども、これらについて効果というのはあるのですか。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） 効果という点につきましては、一定の効果はあるのかなと思うんですけども、今、実際の利用客数が年々減少している状況がありますので、効果といたしましても、なかなかちょっと難しいところがあるのかなと考えております。

○議長（田中 勝毅君） 西本君。

○7番（西本 輝幸君） では次に、平成22年度から26年度までの利用状況をお願いします。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） 平成22年度から26年度までの利用状況につきましては、平成22年度が1,055人、平成23年度は1,397人、平成24年度は2,194人、平成25年度が1,905人、平成26年度が1,583人となっております。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 西本君。

○7番（西本 輝幸君） さっき言われた事業は余り効果がなかったからお金も減少しているという捉え方でよろしいですか。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） この全体の減少に関しましては、いろいろな要因があると思います。実際、天草管内の入り込み客数も全体的に減っておりますけども、そのほかには、個

人の車の利用、観光客が多いというのも一つの要因かなと思います。実態としてはPR不足も若干あるのかなということも考えております。

○議長（田中 勝毅君） 西本君。

○7番（西本 輝幸君） せっかく広告料とか、ガイドの謝金とか絵画とか、事業をされて発信をされておりますので、もう少し何かの対応策をとって、減少しないように努力してもらえないかなと思います。もう答弁はいいです。

では次に、平成27年度については、4月から8月までのAコース、Bコースの各区間の利用状況もあわせてお願いします。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） 平成27年4月以降の利用状況につきまして、8月までの状況ですけれども、4月が126人で、5月が134人、6月が52人、7月が168人、8月が260人となっております。4月から8月までのAコースにつきましては、1日3便ですけれども、利用客が562人で、Bコース、これは1日1便ですけれども、利用客は178人となっております。Aコースは1便当たり187人となっているところでございます。

○議長（田中 勝毅君） 西本君。

○7番（西本 輝幸君） 8月は調査をしてると聞いたんですけども、調査はされたのですか。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） 8月に乗降調査を実施しておりまして、その利用状態の結果ですけれども、生活交通手段を目的とした利用者が全体の66%で、観光を目的とした利用者が34%となっております。利用区間としては、他の路線バスへの乗り継ぎを目的に利用した、さんばーるから松島の区間が全体の30.4%と一番多く利用されております。次いで、観光目的に利用したシークルーズさんから、さんばーるまでの区間が14.6%となっております。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 西本君。

○7番（西本 輝幸君） 今の答弁では、生活手段を目的とした利用者が66%ですね。それと、観光を目的に利用された利用者が30.4%ということですが、これは何か、観光循環バスとしては機能していないのではないかと思うんですけども、この点についてどのように思われますか。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） 確かに、このパライズストローリーは観光客の増加を目的としたものではありますけれども、地域住民の交通手段としても有効に活用していただくという点で利用客が多いというのはありがたいと思いますが、実態として、観光客のほうがもう少しふえるような施策なりが必要なのかなという感じではあります。

○議長（田中 勝毅君） 西本君。

○7番（西本 輝幸君） 観光客が減った理由については、検証か何かしてないんですか。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） 特別減った理由につきましては、検証といたしますか、先ほども申しましたとおり、いろいろな要因があるのかなというところまではそこそこ分析しておりますけれども、はっきりした要因ということに関しましては検証しておりません。

○議長（田中 勝毅君） 西本君。

○7番（西本 輝幸君） では、次に進みます。次は、平成25年度から一般財源を活用して運行していますが、費用対効果のほうはどのように捉えているのかお尋ねをいたします。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） まず、観光循環バスを運行する目的といたしましては、鉄道や船舶等の公共交通機関を利用しまして訪れる観光客を呼び込むための2次アクセス強化を図るために、実証運行を経まして本格運行を開始しているところでございます。

観光循環バスは、観光客の利便性の向上のため、さんば一を拠点として市内の観光スポットをめぐり、特急A列車で行こう及び天草宝島ラインとの接続を可能としておりまして、2次アクセスの強化、交流人口の拡大等につながっているものと思っております。

しかしながら、利用客の状況につきましては、一定時期は伸びておりますけれども、全体で見ますと年々減少しておりまして、1人当たりの経費が上昇していることから、年々、費用対効果は低くなっているものと感じております。

○議長（田中 勝毅君） 西本君。

○7番（西本 輝幸君） 今の答弁を聞くと、天草宝島ライン等の2次アクセスの強化をして、交流人口の拡大につながったということですが、つながっていても循環バスに乗る利用者は、一時的にとというのは夏休みとか春休みの時期ですか。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） 季節的なものもありますけれども、特にA列車とかが開通した時点の一、二年という範囲ではないかなと思っております。

○議長（田中 勝毅君） 西本君。

○7番（西本 輝幸君） では、利用者は年々利用していると言われましたけれども、1人当たりの経費の上昇は幾らですか、上昇率は。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） 観光循環バスの1人当たりの運行単価といたしまして、運行バスの委託料から利用者数を割った数字ですが、22年、23年につきましては補助を使っている関係で、24年から言いますと、24年が1人当たりの単価として4,016円ほどかかっております。それと、25年度が5,181円、26年度が6,152円、1人当たりの単価がかかっているような状況でございます。

○議長（田中 勝毅君） 西本君。

○7番（西本 輝幸君） 27年度はわかりませんか。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） 27年度は、今まだ年度が終わってないので出てないんですけども、8月までの実態を考えると、26年度とほぼ変わらないような状態で、若干これよりも高くなるような形と思います。

○議長（田中 勝毅君） 西本君。

○7番（西本 輝幸君） それならば6,000円ぐらいですね。そうすると、今の時期で6,000円ということは、今からは観光客も余り乗らないんじゃないかと思うんですよね。ですので、これはもう少し何か対策をしなければ、もうどうにもならないと思うんですよね。そしてまた、1日当たりの乗降者の人数を見ますと、大体8.4人ぐらいですね。大体平均すると8人ぐらいですね。そうすると、4便ですので、1便当たり二人しか乗らないということですね。これでは観光循環バスの意味が全然ないと思うんですよ。ですから、この辺をもう少し精査してもらえればと思います。もう答弁はいいです。

次に進みます。これまで、観光循環バスについては6人の議員の方が質問されています。指摘や提案をされていましたが、どのように反映されているのか。また、検証はなされているのか。この点について伺いたいと思います。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） これまでの議会の定例会におきまして、西本議員さんを含めまして7名の議員の方々から観光循環バスに係る質問がありました。一つ、二つ上げますと、主に姫戸・龍ヶ岳方面及び上天草総合病院までの延伸及び観光循環バスの利用促進に関しまして、御指摘や御提案があったところでございます。

まず、姫戸・龍ヶ岳及び病院までの延伸につきましては、所要時間が長くなることであったり、他の公共機関との接続が困難となるということで実施しておりません。

観光循環バスの利用促進につきましては、観光地を見物する時間及び車内での観光案内がないということが指摘されております。また、観光を目的とした循環バスとしての工夫が必要ということも指摘されております。この指摘によりまして、運行のあり方を検討した上で、千巖山及びあまくさ村におきまして、10分間の停車時間を設け、写真撮影等を可能としたところでございます。それと、上天草観光ガイドの会における車内でのガイドを開始したところでございます。

次に、A列車とリンクするような仕掛けが必要ではないかという御提案に対しまして、A列車の運行開始に伴い、観光循環バスの運行時刻等の調整を行い、A列車、シークルーズ及び観光循環バスが接続できるよう調整を行ったところでございます。

また、千巖山の休憩所の整備が必要ではないかとの御指摘に対しましては、千巖山は本市における重要な観光スポットと認識しておりまして、伐採等による景観の確保等の整備を実施しているところでございます。

最後に、市民も乗車可能であれば市民にもPRを行うべきではないか、利用者がふえるような対策はどのように考えているのかという御指摘に対しまして、本市における観光循環バスは、観

光スポットを循環し、市民も利用できる公共交通機関として、市民にも知っていただくことが重要であるものと認識しており、市民への周知として、市内保育園を巡回し、園児が描いたバスの絵の車内展示を行っているところでございます。

これらの利用促進策を検証するために、平成24年度から毎年、一定の時期におきまして乗車される方にアンケート調査を行っているところでございます。そのアンケート調査等の結果を受けまして、先ほど申しましたとおり、福岡からの利用客が多かったことから、旅行雑誌への広告等掲載を実施しているところでございます。しかしながら、利用促進策を講じているものの、実態としては平成24年度をピークに利用者数が減っている状況でございます。

○議長（田中 勝毅君） 西本君。

○7番（西本 輝幸君） 質問をするたびに、利用者数が減少しているということですが、24年度を境にずっと減少してるわけでしょう。ですので、もう少し早い時期に対応をすべきではなかったかと思うんですよね。

それと、さっき千巖山で10分間休憩、あまくさ村で10分間休憩と言われましたけれども、休憩は10分間ではどうにもならないんですよね。私も実際、千巖山でバスをおりたところから、ちょっと山を上がって回ってみましたけれども、急いでも10分かかるんですよ。そして、景観も見られないし、写真も何も撮れないんですよ。あまくさ村もしかりと思うんですよね。10分ぐらいでは何も買う暇はないし写真も撮れないですよ。実際にこういうところが検証が足らなかったのではなかろうかなと思います。

これはもう済んだことですのでいいですけども、最後にあと一点質問をいたします。これまでの答弁を踏まえて、平成28年度も運行されるのか、総務企画部長にまず伺いたいと思います。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） 28年度も運行されるのかということにつきましては、観光循環バスの利用促進につきましては、今さまざまな対策を講じているところではありますけれども、実際、年々利用客が減少しております。また、運行につきましては、8月に実施しました利用状況調査の結果を踏まえ、公共交通会議等におきまして、今後のあり方を検討していくことにしたいと考えております。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 西本君。

○7番（西本 輝幸君） 28年度の利用促進については、本当に真剣に考えなければ、今の状況では、1年間で一般財源を1,000万円使用して継続するというのは余りにも市に負担がかかり過ぎますので、一時中止して、千巖山・前島地区総合開発の完了後にコースを見直して再度開始すればと思いますけれども、市長の思いはどうですか。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） 日ごろから西本議員には、乗車されて乗車状況を御検証いただいているということを聞いておりまして、本当にありがたく思っています。

大変厳しい状況でもありますし、運行経費も法律の改正によって、今後、上昇も見込まれます。実はことしの予算編成時に廃止するのも一つの方法ではないのかという提案もしたんですけども、前島の開発もあると。それと宇城市のシャトル便ですが、あの辺との接続等も検証したいということは担当も言っていました。さっきちょっと部長が言ったんですが、廃止するにしても公共交通会議に諮らないといけないという規約があるということでしたので、ことしは、それがたしか8月までは実施するということ言っていましたので、この後の公共交通会議でその辺は意見を集約して判断をしたいと思います。

先ほどおっしゃったように、休止して、また改めてやるということが法律上できるかというのは今ちょっと判断できませんので、そういったところで幅広く選択肢を持って結論を出したいと思います。

○議長（田中 勝毅君） 西本君。

○7番（西本 輝幸君） もう一回、総務企画部長にお尋ねしたいと思いますけども、この公共交通会議というのはどういうものですか。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） 上天草市地域公共交通会議ということで、基本的には定期路線バスの循環の見直しとかを検討してもらおう会議でございまして、構成員としては14名の構成員からなっておりますけども、熊大の先生の会長を筆頭に、運輸局であったり、産交バスの会社であったり、熊本県のバス協会とか、それと区長連合会さんのメンバーを入れまして、14人で構成された会議機関でございます。

○議長（田中 勝毅君） 西本君。

○7番（西本 輝幸君） 通告はしておりませんでしたけれども、ちょっとお尋ねします。私も入れて7名の方が、この循環バスについては質問されておりますけど、その中で一番多かったのは、龍ヶ岳方面、上天草総合病院までの路線といいますか、これが一番多かったと思うんですよね。この点については、その会議で話はできないんですか。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） 提案としては多分出せるのかなと思います。一番多かったということで考えられるんですけども、ただ、他の公共交通機関もここはありますので、そこら辺はもうちょっと協議の時間をいただきたいと思います。

○議長（田中 勝毅君） 西本君。

○7番（西本 輝幸君） わかりました。一応1点でしたので、あと30分残しまして終わりました。

以上で一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（田中 勝毅君） 以上で7番、西本輝幸君の一般質問が終わりました。

ここで10分間休憩をいたします。

休憩 午後 1時32分

再開 午後 1時42分

○議長（田中 勝毅君） 休憩前に引き続き、再開いたします。

島田光久君より資料の配付について申し出がありましたので、会議規則第157条によりこれを許可します。

11番、島田光久君。

○11番（島田 光久君） 11番、島田光久です。一般質問をさせていただきます。きょうは大学生諸君が傍聴しておられるので、張り切って一生懸命頑張りたいと思います。よろしくお願いたします。

最初に、人口減少に対応できる行政運営について質問してまいりたいと思います。

日本の人口は、少子高齢化の進展により、2007年、平成17年から減少時代に入ったと報道されております。日本創成会議は、2040年までには896の自治体が消滅の可能性があると発表しております。これは、日本中に大きな衝撃を与えているところです。

この上天草市も消滅可能性のある自治体の中に入っております。上天草市は、平成16年に合併しております。合併10年目の節目の平成26年度の出生、死亡、転入、転出、人口減少の推移についてと、合併当初からこれまでの10カ年の人口減少の状況について、この2点をお尋ねしたいと思います。

○議長（田中 勝毅君） 市民生活部長。

○市民生活部長（緒方 雅文君） お疲れさまです。

まず、平成26年度のご状況でございますが、平成26年3月31日現在の人口が2万9,954人。当年度中における出生168人、死亡499人、転入679人、転出895人、職権消除等が27人で、26年度末の人口は2万9,380人となり、574人の減少になっております。

それから、合併後の人口の減少数でございますが、平成16年3月31日合併当初の人口は3万5,661人で、平成27年3月31日現在の人口が2万9,380人で、6,281人の減少となっております。年平均570名程度の減少ということになっております。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 島田君。

○11番（島田 光久君） 26年度が574名の減少で、合併後10年間で6,281人の人口減少ということです。この人口減少の中で、自然減と社会減とあります。皆さんの手元にも資料が配付してありますので見ていただくとわかると思うんですけど、自然減というのは、死亡と出生の差の分です。社会減というのは転入、転出の差の分ですね。それを合わせたのが574人の減少ということで、自然減と社会減を見ると、ほぼ同じくらいの減少率になっております。

この人口減少は、私は基本的に少子化というよりも、やっぱり寿命が来て死んでいく人が多いと。上天草市は16年に合併していますが、上天草市の人口は恐らく合併する前の昭和の時代から相当減り続けてきていると私は実感しております。それが近年、人口減少が全体的に加速し

てきたのかなという感じも持っております。

そこで今度は、人口減少に対し、合併して10年間、市は何をしてきたのかということになりますけど、一生懸命いろんな施策は打ってきております。主に、前市長のもとでは、企業誘致を全面的に打ち出して雇用の場をつくるんだと。それと、観光振興で外からの入り込みの人口をふやすとか、その他さまざまなハード面を積極的に行ってきております。それでも定住人口がふえる気配はありません。

創成会議が2040年までに消滅する可能性のある市ということで当市も入っていますが、この2040年というのは団塊の世代が相当減ってきます。私も今64歳ですから、2040年、あと20年後で、生きていたら私は90歳になります。ぜひ健康寿命を延ばして、90歳、100歳まで生きていきたいとは自分では思っているんですけど、それはわかりません。これからこのスピードで、2040年まで人口が毎年減り続けていったら、1万6,000人前後まで当市の人口は減るんじゃないかと思えます。

そこで、今、国は地方創生で新しい交付税をつくって、日本中で人口減少の歯どめと人口をふやす施策に取りかかっています。上天草市でも精力的に進められてきていると思えますけど、これから本当に人口減少をとめることができるのだろうか、とまるんだろうかと。さまざまな施策提案は、確かに私はすべきと思えます。子育て・教育環境の整備、地域の地場産業を活性化して雇用の場をふやすとか、観光サービスの振興をして交流人口をふやすとか、こういう事業はやっぱり財政の許す限り、私は進めるべきだと思っていますけど、この人口減少は恐らくこのまま続いていくのかなという感じがいたします。

そこでちょっとお尋ねしたいんですけど、今後、人口減少は地方創生とかさまざまな事業展開していく中で、当市の場合、歯どめがかかるのか、それとも、なだらかな緩やかな人口減少にすることができるのか、その辺の認識をちょっとお聞きしたいと思えます。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） よろしく申し上げます。現在、人口減少に歯どめをかけるべく、国と地方が一体となって地方創生に取り組んでいるところではございますけども、先ほど議員さんが申されましたとおり、国立社会保障・人口問題研究所の日本の地域別将来人口推計によりますと、本市の人口は2040年に1万7,188人ということで数字が出ております。2010年の国勢調査時が2万9,902人となっておりますので、実態として、1万2,714人の減少が見込まれているところでございます。将来、大幅に人口が減少すると推計されておりまして、その影響は地域経済の縮小であったり、地域産業規模の縮小や存続、地域医療・福祉など社会保障、地域コミュニティーの維持存続、市財政への影響など、さまざまな分野に及ぶことが考えられると思えます。

今後、策定する本市の人口ビジョンにおきまして、将来人口の展望を描くなどとしておりまして、社会保障や地域コミュニティーなど、人口減少に伴い生じる課題等に対しまして、それぞれ対応していくこととなると思えますけれども、今後の持続可能な地域社会をつくるために、行政

と民間、個人が一体となって取り組まなければ実現できないのではないかと考えております。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 島田君。

○11番（島田 光久君） 今、毎年人口が減り続けております。当市の周辺部も、もうほとんど人口減少に向かって足を踏み出して、歩き出しております。この間、NHKで、クローズアップ現代じゃなかったかと思うんですけど、地方でこれまでお墓を守ってきた高齢者が地方からどんどん減少してきていると。これまで高齢者の年金経済で成り立っていた地域で、なかなか経済が回らなくなってきたと。全国の5分の1に及ぶ自治体で、高齢者の減少が始まってきているというのを報道しておりました。高齢者がいなくなるということは、限界集落ではなく、今後集落自体が消えていくことにつながってまいります。

私も長年、40年ほど商売をやっております。確かに同業者がどんどん店をたたんでおります。私も相当売り上げが落ちて、商売をいつまで続けようかと、そんな思いをしております。地域での買い物がなかなかできなくなってきた。経済がどんどん落ち込んできております。そして、それに伴う空き家がふえ、お店がシャッターをおろしていく。この現象が今、当市でも広がってきております。

私は、この人口減少は少子高齢と社会現象が複雑に絡み合ってきているので、これを食いとめることは大変難しいんじゃないか、これからは地域で人口が減ることを前提にして生きていかなければいけないんじゃないかと。引き続き、これまでどおり安心して豊かに暮らしていけるように、地域での暮らしに目を向ける必要があると思います。行政は、このまま人口が減り続けた場合、今の公共サービスをどこまで維持できるのだろうか。恐らく税収も落ちてくると私は思います。それと、サービスの低下も懸念されます。

これからはぜひ、人口が減少しても今の生活を維持し、地域での暮らしを守るために、人口減少を前提にした上天草市まちづくりの策定を、今のうちから長い目で取り組んでいく必要があると私は思います。さまざまな施策が私は必要だと思います。空き家がどんどんふえてきます。畑も放棄地がどんどんふえつつあります。天草を観光で売り込むためにも、空き家がふえ続けたり、地域が荒れてきたら、やっぱり観光の足も全体的に引っ張ってくるんじゃないかと思えます。

そこでお尋ねですけど、今後、人口が減るということで、市の施策もある程度知恵を出して早目から取り組む必要があると思うんですが、歯どめ、人口増、経済活性化という形で進んでおります。それも必要です。でも、人口がどんどん減っていった場合の行政運営は、今からやっぱり議論しながら進めていく必要があると思いますので、当市としてはそういうことを今後考えていくべきと私は思いますけど、どうでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） 今、議員さんが申されましたとおり、統計からいくと人口減少していきます。その中で、先ほど申しましたとおり、人口減少によって、いろんな地域医療であったり、福祉、社会保障、地域コミュニティーであったり、財政的などところにも影響を及

ばすと、減少していけばそういったことが起こることも考えられるところでもあります。

そこで、今後、市といたしまして、当然、地方創生の取り組みを推進しながら、将来の人口展望に対応した地域のあるべき姿については考えていく必要があるものと思っております。

○議長（田中 勝毅君） 島田君。

○11番（島田 光久君） 確かに人口減少に向かって行政を動かすということは、相当考え方を180度変えるところも出てくると思います。どうしたら地域を維持しながら住民が暮らしていけるか。前議会で私が質問したのは、その一部として市民が参加して、自分たちでできるような自治組織の強化が私は必要じゃないかという考えのもとで質問したんですけど、その辺をしっかりと検討していただいて、市民が参加のできる行政運営をですね。やっぱりすぐはできないと思いますし、相当時間もかかると思いますので、ぜひそれを進めないと、私はこの地域は守っていけないと思っております。

最後に市長の考えをお聞きしたいと思います。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） 人口減少については、議員おっしゃるように、もう日本全体が人口減少の時代を迎えていますので、人口が減少していくというのはある程度受け入れざるを得ないと思います。ただ、その中で、ここで生活していく、地域を守っていくためには、人口が減少しても、ここに住んでる方々が生活できる所得があって、コミュニティーを守っていくというのが大事だろうとは思っています。人口減少も確かに非常に問題なんですけど、その中で、いわゆる生産年齢の人口が減少している。だから、いわゆる高齢化が進んで、現役で働いている方々の人口が減っているというのも非常に大きな課題だと思っております。それに対応して施策を行うべきだという御提案は非常にもったもだと思っております。

そもそも私は、平成16年の市町村合併が、その社会に向けて、まず最初の取り組みだったと思っています。ですから、行政の長いスパンで考えると、いろんな意味でその将来に向かって取り組みを行っているところでもあるんですけど、これからはさらに取り組まないといけない部分も出てくると思います。

これまでは、やっぱり行政としても、いわゆる行政の利益の分配を主にやった分もあるんですけど、議員がおっしゃるように、今後は地域も含めて、地域のあり方を考えると、行政と地域と、いわゆる民間の方との共存でやっていかなければならない部分もあります。ということは、利益だけではなく、負担等の分配も考えていかなければなりません。そういったところは、やっぱり理解をしていただくための努力が行政にも必要だと思います。恐らくそういったことも、私は今後、提案をしていく時期が多分来ると思っています。ですから、そういったところは我々もやっぱり決断をしないといけないと思いますし、理解をいただけるような説明をできるように準備をしていきたいと思っております。

○議長（田中 勝毅君） 島田君。

○11番（島田 光久君） 恐らく人口が減少してくると、行政自体も大きくさま変わりをせざる

るを得ないと思います。先ほど、宮下議員より職員を余り減らさなくていいという答弁があったんですけど、これから人口が半分になってきたら、やっぱり行政も相当スリム化する必要も今後出てくる、せざるを得ないという時期が私は来ると思います。ぜひ前向きにしっかり、市民の皆さんは期待をしておりますから、頑張ってもらいたいと思います。

次に入りたいと思います。2番目の耕作放棄地の現状と農業振興策についてお尋ねしてまいりたいと思います。

今、それぞれの地域をずっと見回すと、放棄地がふえております。山は荒れ、山がどんどん里におりてきております。過去2年間の耕作放棄地と遊休農地の状況について、上天草市全体と旧4町ごとの状況を説明してもらいたいと思います。

○議長（田中 勝毅君） 経済振興部長。

○経済振興部長（村川 和敬君） 農地の利用状況につきましては、地籍調査終了後の平成25年度から、農地法第30条に基づきまして、農業委員会で毎年1回、農地利用状況調査を実施しております。この調査におきまして、抜根、それから整地、区画整理、客土等によりまして再生可能な耕作放棄地、遊休農地を耕作放棄地（A）と言います。それから、森林・原野化しており、再生が困難な荒廃農地を耕作放棄地（B）に分類して集計を行っております。

過去2年間の状況ということでございますが、平成25年度が農地全体面積2,815ヘクタールのうち、耕作放棄地（A）分類が375ヘクタールで、全体の13%でございます。それから、耕作放棄地（B）分類が1,187ヘクタールで42%でございます。

次に、4町別の内訳でございますが、大矢野町が農地面積1,550ヘクタールのうち、耕作放棄地（A）分類が208ヘクタール、全体の13%、耕作放棄地（B）が616ヘクタールで40%。松島町ですけれども、農地面積795ヘクタールのうち、耕作放棄地（A）分類が117ヘクタールで15%、耕作放棄地（B）分類が286ヘクタールで36%。次に、姫戸町ですけれども、農地面積199ヘクタールのうち、耕作放棄地（A）分類が21ヘクタールの11%、耕作放棄地（B）分類が105ヘクタールで53%。次に、龍ヶ岳町でございます。農地面積269ヘクタールのうち、耕作放棄地（A）分類が27ヘクタール、10%。耕作放棄地（B）分類が178ヘクタール、66%でございます。

平成26年度におきましては、農地全体面積2,806ヘクタールのうち、耕作放棄地（A）分類が452ヘクタールで16%、耕作放棄地（B）分類が1,199ヘクタールで43%でございます。

4町別でございますが、大矢野町が農地面積1,556ヘクタールのうち、耕作放棄地（A）分類が255ヘクタールで16%、耕作放棄地（B）が618ヘクタールで40%。松島町が農地面積782ヘクタールのうち、耕作放棄地（A）分類が133ヘクタールの17%、耕作放棄地（B）分類が293ヘクタールで38%。姫戸町が農地面積198ヘクタールのうち、耕作放棄地（A）分類が25ヘクタール、13%、耕作放棄地（B）分類が106ヘクタールで54%。龍ヶ岳町が農地面積269ヘクタールのうち、耕作放棄地（A）分類が37ヘクタールの14%、

耕作放棄地（B）分類が180ヘクタールで67%でございます。

最後に、農地に対する耕作放棄地の割合は、（A）分類で3%、（B）分類で1%増加している状況でございます。

○議長（田中 勝毅君） 島田君。

○11番（島田 光久君） 耕作放棄地も地域で相当格差が出てきております。田んぼ系は、まだどうか、さほど放棄地は多くないんですけど、畑作の放棄地が相当ふえてきております。

そこで、この放棄地は今後まだまだ進むのか、発生の原因はどのようなものが考えられるのかについてお尋ねしたいと思います。

○議長（田中 勝毅君） 経済振興部長。

○経済振興部長（村川 和敬君） 耕作放棄地は今後もまだ進むのかということでございますが、上天草市における農業従事者の高齢化、それと労働力不足による離農などがありまして、地域内の耕作者が減少している現状でございます。そういう状況を踏まえれば、今後も耕作放棄地は増加していくものと想定されます。

○議長（田中 勝毅君） 島田君。

○11番（島田 光久君） じゃあ、これから恐らく高齢化率がまた上がってきますので、放棄地がどんどんふえてくると思います。今後、耕作放棄地が与える影響ですね。現状はどのように捉えますか。

○議長（田中 勝毅君） 経済振興部長。

○経済振興部長（村川 和敬君） 耕作放棄地は、周辺の環境にさまざまな影響を与えるおそれがあり得ると考えております。まず、営農面では病虫害、鳥獣被害の発生、雑草の繁茂、用排水施設の管理への支障等の悪影響が考えられます。

また、地域住民の生活環境への悪影響といたしまして、土砂やごみの無断投棄、火災発生の原因等となることが考えられます。

加えまして、中山間地域等の上流地域で発生した耕作放棄地につきましては、周辺の営農、生活環境を悪化させるだけでなく、下流地域の国土保全機能の低下を招くことも考えられるところでございます。

以上でございます。

○議長（田中 勝毅君） 島田君。

○11番（島田 光久君） では、この耕作放棄地全体で、再生利用が困難な場所と再生できる農地が分類できると私は思います。過去2年間の取り組みの状況はどのように取り組まれているのか、その辺をちょっと教えてください。

○議長（田中 勝毅君） 経済振興部長。

○経済振興部長（村川 和敬君） 農地利用状況調査におきまして、耕作放棄地で再生利用が困難と見込まれる荒廃農地は、上天草市全体で1,199ヘクタールでございます。

復元が不可能と見込まれる耕作放棄地につきましては、農業以外の利用を促進することを目的

といたしまして、非農地化を推進する取り組みを農業委員会で平成26年度より実施しております。

実施状況につきましては、平成26年度に龍ヶ岳町樋島地区で約42ヘクタール、今年度におきましては、松島町教良木地区で約57ヘクタールを予定しているところでございます。今後も上天草市全域を計画的に行っていく予定でございます。

一方、再生可能な農地につきましては、452ヘクタールでございまして、解消状況の実績といたしまして、平成24年度から、阿村地区の遊休農地3.6ヘクタールに、八代市の法人が菜種の栽培を行っているところでございます。過去2年間におきまして、まとまった面積での実績はございません。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 島田君。

○11番（島田 光久君） 今後、恐らく畑が山に戻っていくと思います。私もよく聞かれるんですけど、もうあの畑は竹やぶになって山になっているから要らないので市がもらってくれないかとよく言われるんですけど、そういうことはできるんですか。どうですかね。

○議長（田中 勝毅君） 経済振興部長。

○経済振興部長（村川 和敬君） そこにつきましては、あくまでも個人の所有でございますので、市として、それを市の所有にするというのはなかなか困難なところがあると思います。

○議長（田中 勝毅君） 島田君。

○11番（島田 光久君） 恐らく放棄されて山に戻っていく畑がこれからどんどん私はふえてくるんじゃないかと思っております。

また、国は法律を改正して、耕作放棄地解消に向けていろんな施策を進めております。また、農地に関しては、高齢化で農作ができない農地に関しては、農地バンクを設置されて取り組みを進めていますが、その辺の取り組みは上天草市ではどのような状況なのか。それをちょっと教えてください。

○議長（田中 勝毅君） 経済振興部長。

○経済振興部長（村川 和敬君） 議員の御質問の農地バンクですけれども、これは農地中間管理機構が実施します農地中間管理事業についての御質問だと考えます。この農地中間管理事業につきましては、農地の貸し手と借り手のマッチングを行い、担い手への農地の集積、集約化を図りまして、農業規模拡大等による農用地利用の効率化と高度化の促進を行う事業でございます。平成26年度に新しく創設されたところでございます。

この事業につきましては、地域内における分散した農地や錯綜した農地を整理して、担い手ごとに集約化する必要がある場合、耕作放棄地を含めた基盤整備等の条件整備を農地中間管理機構が実施する事業でございます。御質問の耕作放棄地の解消を直接の目的とする事業ではなくて、当市においては、その実績は今のところはございません。

なお、耕作放棄地の解消に向けた直接的な取り組みといたしましては、国、県の耕作放棄地解

消緊急対策事業を活用いたしまして、耕作者に補助金を交付する事業を実施しているところでございます。耕作放棄地解消緊急対策事業の過去の実績といたしましては、24年から26年度までに、面積として3万6,865平方メートルで補助額が110万4,000円。今年度につきましては、4,162平方メートルで、12万4,000円を予定しているところでございます。

○議長（田中 勝毅君） 島田君。

○11番（島田 光久君） 農業も当市の地場産業の一つであります。だから、相当、農地も余ってきておりますので、これからぜひ農地従事者をふやす施策、国、県の施策を上手に取り入れて、農産物の生産拡大に向かうことによって、私は雇用も生まれてくるんじゃないかと思うんですよ。農産物の生産拡大に向けて、市としてどのような取り組みの支援をされているのか。

確かに、国の施策、県の施策はわかります。それぞれの地域性もありますし、当市は温暖な地だからいろんな作物が私はできると思うんですけど、そういう支援体制をしっかりとつくる必要があると思います。私も仕事柄、野菜、果物を販売しております。東京にいたんですけど、ハウスで野菜とかいろんな作物をつくるわけなんです。ハウスでつくった場合には燃料費が相当かかると。宮崎も含めて天草は温暖地だから、燃料費が削減できるから競争に勝てるんじゃないかという議論も一時は相当した記憶もあります。特に天草は温暖地で、相当農地もこれから余ってきますので、生産拡大はできると私は思うんですけど、その支援体制計画ですね。農業生産拡大に向けて支援体制の計画もやっぱり進めていいんじゃないかと私は思います。なかなか厳しい面はあると思うんですけど、その辺はどうですか。

○議長（田中 勝毅君） 経済振興部長。

○経済振興部長（村川 和敬君） 農産物の生産拡大に向けての取り組みにつきましては、国の強い農業づくり交付金事業を活用いたしまして、耐候性ハウスの設置によるキュウリ等の生産拡大、それからJAあまくさ大矢野農産物集送センターを今度新しく建設いたしましたときに、補助金を交付をしているというところでございます。

また、市の独自の取り組みといたしまして、認定農業者を対象とする営農促進対策事業補助金によります農業機械の購入、それから育苗施設等の設置、小規模土地改良事業等への支援を実施して、農業生産の効率化や省力化を推進しているところでございます。

また、農林水産業振興事業費補助金といたしまして、農業者団体へ新規農産物の種苗費を補助する新規特産品導入事業や、土壌分析料や試験栽培種苗費を支援する生産技術向上事業等を実施して、生産体制の強化を図っているところでございます。

また、支援体制の計画策定ということでございますが、今申し上げました事業実施に当たりまして、毎年度、農業者団体等の要望を伺いながら、JAあまくさ等と連携した支援体制をとって対応しているところでございます。しかし、市場の動向を踏まえて柔軟に対応するための体制の計画までは策定していないというところでございます。

○議長（田中 勝毅君） 島田君。

○11番（島田 光久君） 今、当市もやっぱり観光振興と6次産業化に取り組んでいますけど、

恐らく6次産業化は、確かに全国的にされていますけど、私は原材料は少ないと思うんですよね。だから、農産物だったら農産物の生産拡大をして、その一部を6次産業化につなげていかないと、6次産業化だけ走っていつちゃって、恐らく効果は見えてこないと私は思うんですよね。

それと、新しい若い世代が農業に取り組むために、県、国の施策以上に市単独の支援施策も取り組まないと、若い世代を農業従事者に持っていくにはなかなか厳しいんじゃないかと私は思うんですよね。だから、特にこれから新しい農産物開発を進められて、新しい農産物の分野で若い世代を呼び込むような取り組みを今後、私は検討すべきじゃないかと思うんです。

特に、先ほど言ったように、天草は温暖ですので、いろんな農産物ができます。今、特に国が施策を進めているのは、薬草作物の推進を相当進めております。今、健康志向ということで、やっぱり薬草作物が健康産業にある程度、生産が上がってきております。だから、その辺もぜひ検討されて、若い世代を呼び込めるような農業施策を考えて取り組んで、情報を発信しながら仕事をつくっていくということも考えないと、ただ、農業をやっている方は経済的に豊かですから耐候性ハウスとかを利用してどんどん生産拡大ができると思うんですけど、これから始める人はなかなか私は厳しいんじゃないかと思えます。

次に入りたいと思います。次は、イノシシの捕獲状況と対策についてお尋ねしたいと思います。

今、全国的にイノシシが相当ふえております。当市においても相当イノシシがふえて、もう行き先、行き先でイノシシをどうかしてくれと市民の方が強く言われて、私はいつも怒られております。

そこで、平成26年度の上天草市全体、旧4町、天草全域、県内の捕獲状況を教えてください。

○議長（田中 勝毅君） 経済振興部長。

○経済振興部長（村川 和敬君） イノシシの捕獲状況とその対策ということでございますが、平成26年度の上天草市における捕獲頭数につきましては、全体で944頭のイノシシが捕獲されております。4町ごとの捕獲頭数ですけれども、大矢野町が168頭、松島町が399頭、姫戸町が128頭、龍ヶ岳町が249頭でございます。

なお、天草全域では7,517頭、それと熊本県全域でございますが、2万8,032頭のイノシシが捕獲されている状況でございます。

○議長（田中 勝毅君） 島田君。

○11番（島田 光久君） 今の捕獲状況の中で、ここ5年間の上天草市の捕獲頭数の推移をさかのぼって教えてください。

○議長（田中 勝毅君） 経済振興部長。

○経済振興部長（村川 和敬君） さかのぼって過去5年間ということでございますが、まず平成22年度が894頭、23年度が692頭、24年度が619頭、25年度が977頭、26年度が944頭となっており、23年度と24年度には一旦落ち込んでおりますけれども、捕獲頭数は年々ふえる傾向でございます。

○議長（田中 勝毅君） 島田君。

○11番（島田 光久君） これは全体の数なんですけど、この中で、大矢野、松島、姫戸、龍ヶ岳で、大矢野地区の伸びが大きいと思うんですが、資料があったら、大矢野地区のイノシシの5年間の伸び率を。資料はありますか。

○議長（田中 勝毅君） 経済振興部長。

○経済振興部長（村川 和敬君） 捕獲者の居住地別の捕獲頭数というのがありますが――。

○11番（島田 光久君） 大矢野地区でいいです。

○経済振興部長（村川 和敬君） よろしいですか。大矢野町が、22年が20頭、それから23年が3頭、24年が42頭、25年が65頭、26年が167頭となっております。

○議長（田中 勝毅君） 島田君。

○11番（島田 光久君） 確かに、これまでは龍ヶ岳、松島、姫戸が相当イノシシの捕獲状況があったんですけど、ここ数年、大矢野地区でのイノシシ捕獲状況が伸びてきております。大矢野地区で167頭ですね。この分析をしてみますと、大矢野の維和地区と中地区でほとんど捕獲されて、上地区にはまだ捕獲の報告は上がっていないと思います。

今後、恐らくは、大矢野地区には相当餌がありますから、まだ広がってくると思います。絶対来ます。3年後にはこの倍になります。なぜかという、私は龍ヶ岳の樋島地区なんですけど、4年前には1頭もいなかったんです。たまたまウリボウが1匹来て、ウリボウを見てから3年後はどんとふえております。大矢野地区は海に面していますから、イノシシは海を泳いで渡ってくるということで、その目撃情報もあちらこちらでされております。親子で渡ってくるイノシシもいます。それで、この対策にしっかり取り組んでいかないと、農産物の被害、特に大矢野地区は農産物がすごくありますので餌もいっぱいあります。まだ絶対ふえます。この取り組みについて、今のところ、何か検討されておりますか。

○議長（田中 勝毅君） 経済振興部長。

○経済振興部長（村川 和敬君） 対策でございますけれども、現在、イノシシの目撃情報や農作物の被害の報告を受けまして、随時、猟友会に捕獲をお願いしている状況でございます。銃、それから箱罠、囲い罠、くくり罠といった方法で捕獲を行っているというところでございます。処分はまた後でいいですか。

○11番（島田 光久君） いいです。

○議長（田中 勝毅君） 島田君。

○11番（島田 光久君） 私たちの地域では、家庭菜園でサツマイモとか野菜とか、ほとんど自給する形で結構高齢者の方はつくっていらっしやいました。2年、3年と畑を荒らされて収穫ゼロになるものだから、もう山手の畑はほとんど放棄してしまっています、もうやめたと。だから、さっきの畑の放棄地はこういうイノシシとか動物たちに占領されて、もう人間は勝てない、対応し切れないという状況に来ております。

そしてまた、捕獲されたイノシシの処分ですね。今、穴を掘って埋められているそうです。こ

れもなかなか大変だと聞いております。今後、イノシシの捕獲をまたどんどん進める必要はあるんですけど、有効活用策にもあわせて取り組んでいく必要があるんじゃないかと思うんですよ。

今、天草全体に3カ所の処理場があると思います。御所浦と倉岳と五和だったか、3カ所処分場があると思います。当市もできたら近くにイノシシの処分場でもつくって有効活用して、上天草市民が全部イノシシを食べる、天草の作物を食べて大きくなるんだから、やっぱり食べてやらないといけないんじゃないかとは思います、個人的にですね。その辺も含めて、有効活用策も今後ぜひ考えてほしいと思うんですけど、その辺はどうでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 経済振興部長。

○経済振興部長（村川 和敬君） 今後の処分の方法または有効活用策ということでございますが、処分方法につきましては、原則、捕獲した猟友会の会員の方が持ち帰るということになっております。それから、解体場への搬出または食肉として処理をしている状況と聞いております。やむを得ず持ち帰ることが困難である場合は、生態系に影響を与えないように埋めるなどの適切な方法によって処理をしているというところでございます。

有効活用の対策ということでございますけども、天草管内に3カ所の処理施設があると議員のほうからお聞きしましたけども、確かに、捕獲数がふえるにしたがって処理施設の整備も必要になってくると思います。それもあわせまして、今後の対策について内部で協議を進めているところでございます。

○議長（田中 勝毅君） 島田君。

○11番（島田 光久君） それと、イノシシが持ってくるマイナスの副産物がマダニですね。病気を持ったマダニを相当拡散させております。このマダニにかまれると高熱が出て、入院しなければいけない。時には命を落とすこともあるそうです。過去5年間のイノシシによるマダニの被害状況報告はどれぐらいありますか。

○議長（田中 勝毅君） 経済振興部長。

○経済振興部長（村川 和敬君） これは上天草総合病院の資料でございます。マダニが媒体するウイルス感染症の患者数ということでございまして、イノシシを媒体とする感染症ということではございませんので、よろしく願いいたしたいと思っております。

まず、上天草総合病院の報告によりますと、今現在、全国で報道などで皆さんがお聞きになっていらっしゃると思いますけども、重症熱性血小板減少症候群、SF T Sという感染症でございまして、これは死亡率が30%にも達するというところで報道でも言われております。これが上天草総合病院の報告では、これまでお一人ということでございます。それから、ほかに日本紅斑熱という、これもマダニによるウイルス感染症でございますけれども、日本紅斑熱につきましては、平成18年からの集計でございまして、合計が112名となっております。年度別には、これは過去5年ということでしたので22年からしか聞いておりませんが、平成22年度が8人、23年度が16人、24年度が17人、25年度が16人、26年度が11人で、今年度が8月までで5人が感染しているという報告を受けているところでございます。

○議長（田中 勝毅君） 島田君。

○11番（島田 光久君） 確かにマダニの被害はイノシシだけではないと思います。ネズミとかタヌキとかいろんな動物の体にマダニがかみついて、あちこちに拡散するという形になっていきますけど、今後、これだけイノシシが広がっていくと、マダニの広がりにも注意を払っていく必要があると思います。

ですから、市が情報として流してほしいのは、畑とか山に入っていくときは長袖とかさらさらした綿じゃない、かみつきにくいような作業着がいいそうですので、その辺の啓発もぜひしてもらいたいと思います。

天草のイノシシ捕獲状況はわかりました。でも、天草に生息しているイノシシの頭数把握はほとんどなされておられません。今後、新たな対策をつくるにしても、やっぱり天草全域にどれぐらいイノシシが生息しているか、予測数値を私は調べる必要があると思うんですけど、これまでされたことはありますか。

○議長（田中 勝毅君） 経済振興部長。

○経済振興部長（村川 和敬君） 現在も頭数把握については調査していません。

○議長（田中 勝毅君） 島田君。

○11番（島田 光久君） ぜひ今後、天草広域でイノシシ対策に、私は取り組む必要があると思います。例えば、今、国が交付金措置をされております。イノシシ対策で総合的対策、広域の場合には相当の補助金も国は用意していると思いますので、ぜひその辺も活用されて捕獲体制を強化してもらいたい。ぜひ天草広域連携で、イノシシ対策に取り組む必要が私はあると思うんです。

特にその中でイノシシの生息と、イノシシは行ったり来たりしてますから、こっちで追い出しても、今、電柵を張ってイノシシ被害の防止策をされておりますけど、電柵で確かに効果はあるそうです。でも、電柵で追い出したら、また違うところで被害を起こしますから、確かに作物は守れるんだけど、イノシシ対策には私はならないと思うんですよ。だから、広域でぜひ連携して協議されて、特に進める必要があるんじゃないかと思います。

今度の地方創生の事業の中でも、地域を守るために広域連携でこういう事業展開するということとはできないんですかね。どうですか。

○議長（田中 勝毅君） 経済振興部長。

○経済振興部長（村川 和敬君） イノシシ頭数把握と対策につきましては、大変残念な答弁になるかも知れませんが、イノシシの繁殖力が強くて、それから自然増加率等の変動も大きいと聞いております。そういうことから、具体的な頭数を把握すること、天草全体での把握は困難なことではないかと考えています。

どういう把握の仕方があるかというのと、やはり捕獲実績や被害報告から頭数の増減を判断するしかほかはないのかなということ考えております。

○議長（田中 勝毅君） 島田君。

○11番（島田 光久君） これは恐らく、県、国に相談されたらイノシシの数の把握はできるんじゃないかと私は思うんですけど。確かにそれには予算がかかるかもしれません。そういう予算はやっぱり国の交付金措置をお願いしてしないと、今後どれぐらいイノシシがふえ続けるか、市民の人は本当に不安がっております。

例えば、天草全域で7,500頭捕獲されております。これは3倍いると、2万頭いると仮定しますよ。7,500頭捕獲されて、3倍から5倍は間違いなく私はいると思います。仮に2万頭いたと仮定して、1万頭がメスです。5頭産みます。5万頭ふえる計算になるんですよ。ネズミ算式にイノシシは今ふえてきていると思いますので、やっぱり捕獲ももちろん進めないといけないし、やっぱり推測ですね。どれぐらいふえてるかも把握しながら対策を打たないと、このイノシシ問題は解決しないし、先々、大矢野島いっぱいイノシシが恐らく攻めてくるかもしれません。

この問題は、たしか合併して1年だったかな、北垣議員がこの場で質問をされております。そのときはみんな笑っていらっしゃいました。何だ、イノシシなんてという感じでした。私もそういう気持ちは少しあったんだけど、ウリボウがいるということは地元で知っていたので、半信半疑だったんですが、現状は大変なものです。もう怖いぐらいです。今まで天草ではイノシシの被害は出ておりません。せんだって新聞を見たら、熊の被害があったり、イノシシも全国では1件、2件被害状況が報告されていますけど、これだけふえ続けると恐らく人間への被害も予測されますので、もう少し積極的に取り組んでほしいし、広域でぜひ話をされて一体で取り組むことを考えてもらいたいと思います。

最後に市長、このイノシシ問題についてどのように思われますか。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） まず、ざっと先ほど数字を見たら、熊本県内の中で4分の1以上の天草の捕獲頭数であります。ちょっと前は3分の1が天草という時代があったんですが。冷静に考えると、頭数そのものは天草より絶対、大陸のほうが多いのは間違いのないわけです。ただ、人里においてくる確率が高いということは実態として多分あると思います。

ずっと話の延長になるんですが、対策としては、猟友会の御協力とか、あるいは耕作放棄地をできるだけなくしていくとか、そういったところしか今のところではお答えはできないですね。ただ、対応としては、天草共通の課題でありますので、何らかの機会にそういったところで意見交換ができればと思っています。建設的な取り組みの方法があれば、また御報告をさせていただきたいと思います。

○議長（田中 勝毅君） 島田君。

○11番（島田 光久君） あと一点だけ忘れていました。天草は相当気候が温暖で、餌もそこそこあってイノシシが子育てをしやすい環境らしいです。だから、恐らく上天草市では、ウリボウと人間の子供、どっちが多いだろうとてんびんにかけたら、ウリボウが多いんじゃないかという人が大半じゃないかと私は思います、現実的にですね。

そこで、対策を一つだけお願いしたいのは、イノシシの隠れ場所ですね。予算の許す限りやぶを幾つかずつ潰してほしいんですよね。そういう予算を来年度できたらつくってほしいと思いますので、ぜひ検討していただきたいと思います。

これで、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（田中 勝毅君） 以上で11番、島田光久君の一般質問が終わりました。

これをもって本日の一般質問は終了しました。

次の一般質問は明日9日、午前10時から行います。

本日はこれにて散会いたします。

散会 午後 2時40分